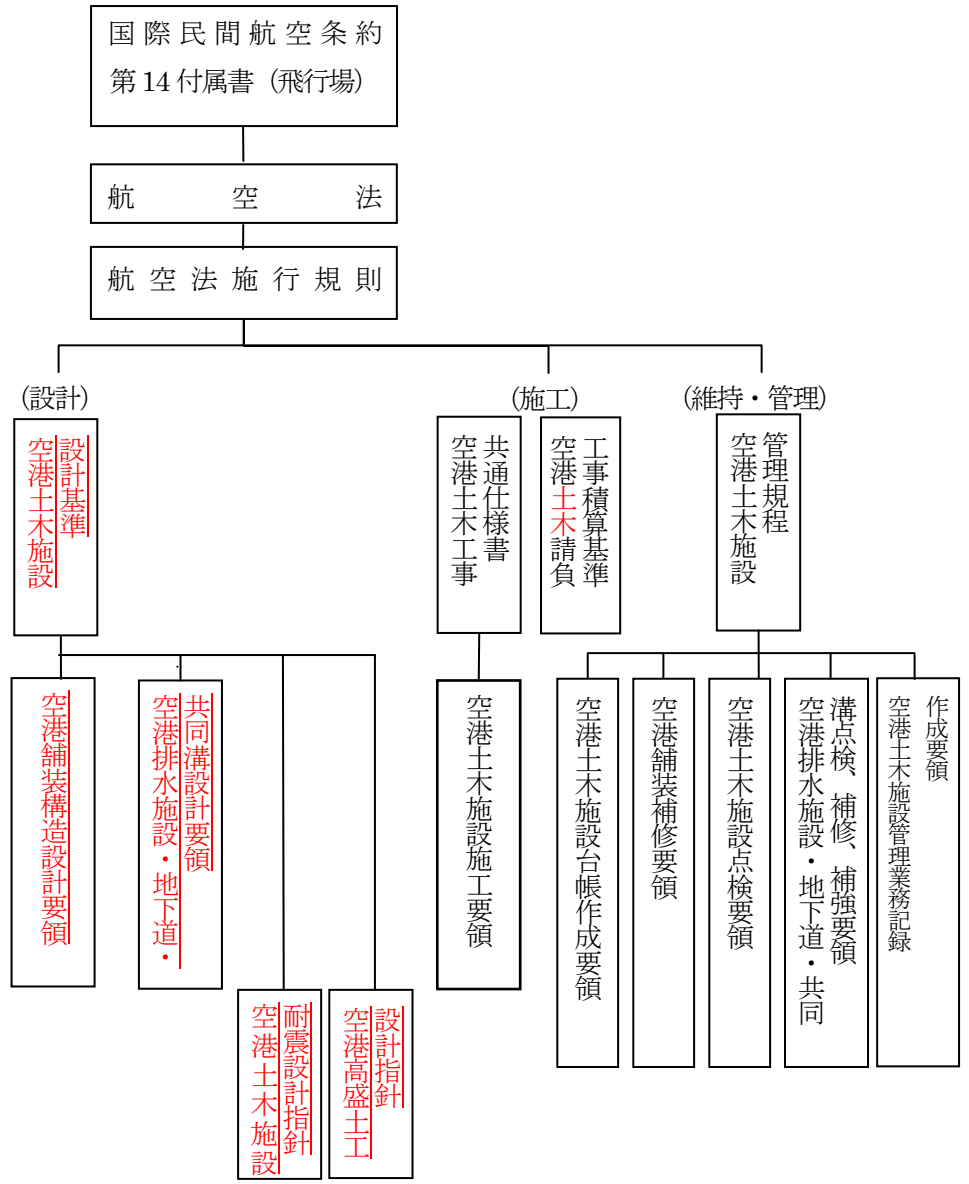
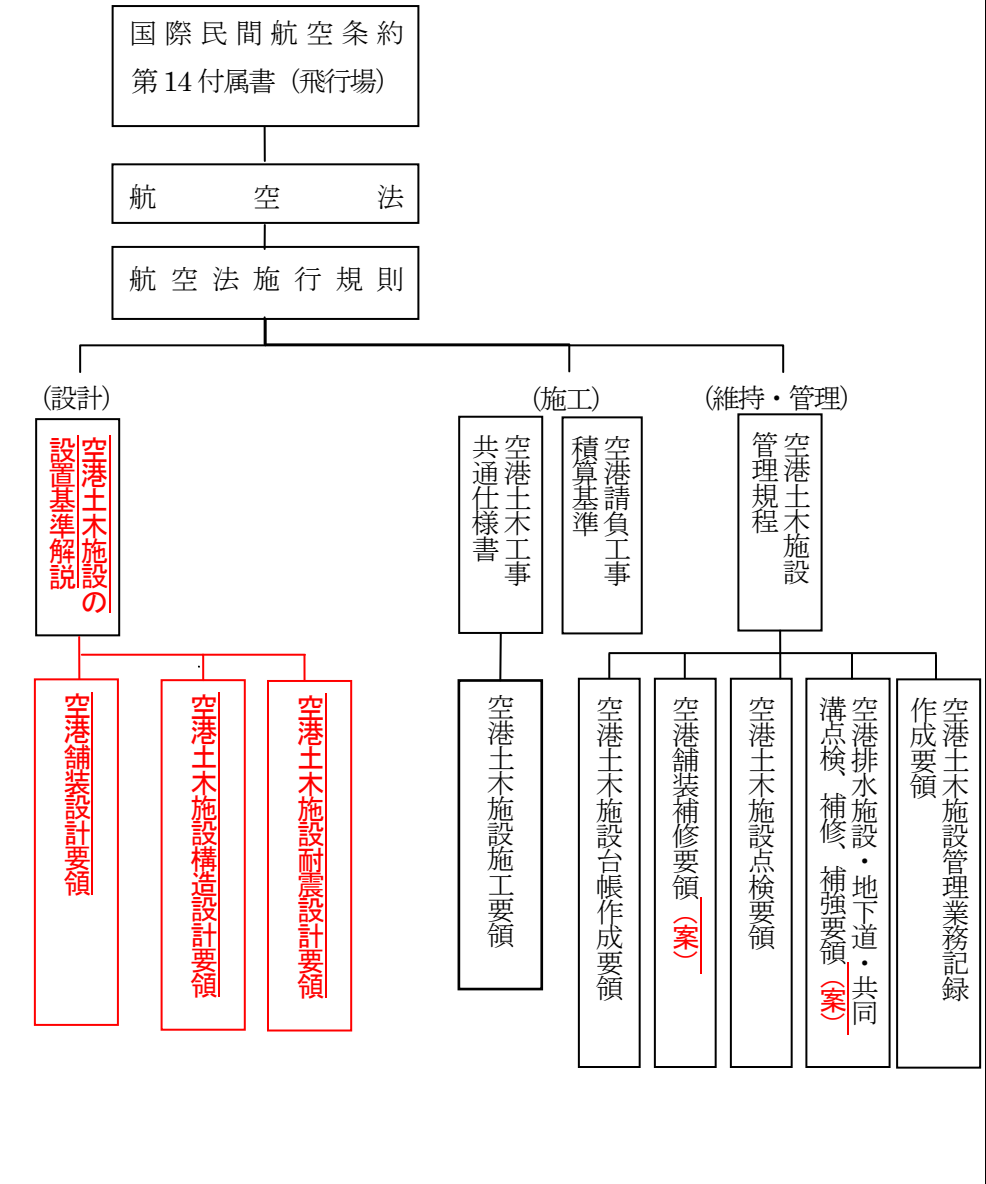


平成23年6月30日
財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター

「空港土木施設施工要領（平成21年4月）」修正のお知らせ

標記につきまして、下記の通り収録内容に一部修正がありましたので、お知らせします。本修正は、平成21年4月時点での字句等について行ったものであり、「空港土木施設施工要領」の改訂については、今後検討されていく予定です。

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>第1編 共通編 第1章 総則 1.2 適用の範囲</p>  <p>図-1.1.1 空港土木施設設計基準などの体系</p> <p>施工要領などの位置付け 空港土木技術には、計画、設計、施工などの種々の分野がある。これらの各分野の技術は、技術的熟度、安全性との関連性などからみて様々なレベルの内容より成り立っている。 そこで、設計の分野に係わる空港土木施設施工要領などを次のように基準、要領、指針に分けて整理することとした。なお、空港土木施設施工要領などの現行体系は、上図のとおりである。 (a) 基準：設計を行うものが、まず決めなければならないことは、対象とする施設が必要な機能を発揮するための位置、形状、強度などである。これらのうち、機能確保、安全性確保、経済性追求のために、<u>設計者に相当の拘束力を持たせるべき内容あるいは決めるための基本的な考えかたを「基準」として定める。</u> (b) 要領：設計基準の解説として述べられるべきもののうち、現時点ではまだ適切であると判断でき、<u>設計者に遵守することを勧告すべき内容で量的にある程度まとまったものを、利用のしやすさを考え、「要領」として定める。</u> (c) 指針：設計基準あるいは要領とするだけの技術的説明がまだ十分でないため、<u>拘束力はないが、参考としてまとめて担当者に示した方がよいものを「指針」として整理する。</u></p>	<p>第1編 共通編 第1章 総則 1.2 適用の範囲</p>  <p>図-1.1.1 空港土木施設設計基準・施工要領などの体系</p> <p>施工要領などの位置付け 空港土木技術には、計画、設計、施工などの種々の分野がある。これらの各分野の技術は、技術的熟度、安全性との関連性などからみて様々なレベルの内容より成り立っている。 そこで、設計の分野に係わる空港土木施設施工要領などを次のように基準、要領に分けて整理することとした。なお、空港土木施設施工要領などの現行体系は、上図のとおりである。 (a) 基準：設計を行うものが、まず決めなければならないことは、対象とする施設が必要な機能を発揮するための位置、形状、強度などである。これらのうち、機能確保、安全性確保、経済性追求のために、<u>設計者が遵守すべき事項を「基準」として定める。</u> <u>施工、維持・管理についても遵守する内容を「基準」として定める。</u> (b) 要領：<u>設置基準の解説として述べられている性能照査の方法の例を「要領」として定める。施工、維持・管理については遵守することを勧告すべき内容で量的にある程度まとまったものを、利用のしやすさを考え、「要領」として定める。</u></p>	<p>1-1-2</p>	<p>図の修正</p> <p>字句の修正</p>

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考
<p>第 2 章 空港工事の留意点</p> <p>2. 2 空港工事に関する諸規程</p> <p>2. 2. 3 航空保安業務処理規程 [解説] (1)航空保安業務処理規程の構成は、次のとおりである。 第 1 分冊 第 4 <u>航務</u>業務処理規程</p> <p>2. 3 空港工事に伴う諸手続き</p> <p>2. 3. 3 制限区域内立入許可手続き</p> <div data-bbox="261 745 1228 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>制限区域内立入許可（承認）に関する手続きなどには、航空保安業務処理規 <u>定</u>第 4 運航情報業務処理規程が適用される。</p> </div> <p>[解説] (1) <u>航務</u>業務処理規程では、空港内への工事関係者の立入りなどに関する手続きなどとして次に示すことを規定している。</p>	<p>第 2 章 空港工事の留意点</p> <p>2. 2 空港工事に関する諸規程</p> <p>2. 2. 3 航空保安業務処理規程 [解説] (1)航空保安業務処理規程の構成は、次のとおりである。 第 1 分冊 第 4 <u>運航情報</u>業務処理規程</p> <p>2. 3 空港工事に伴う諸手続き</p> <p>2. 3. 3 制限区域内立入許可手続き</p> <div data-bbox="1311 745 2279 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>制限区域内立入許可（承認）に関する手続きなどには、航空保安業務処理規 <u>程</u>第 4 運航情報業務処理規程が適用される。</p> </div> <p>[解説] (1) <u>運航情報</u>業務処理規程では、空港内への工事関係者の立入りなどに関する手続きなどとして次に示すことを規定している。</p>	<p>1-2-4</p> <p>1-2-8</p> <p>1-2-7</p>	<p>規程の名称との整合</p> <p>字句の修正</p> <p>規程の名称との整合</p>

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前（H21. 4）	修正後	頁	備考
<p>付録 7. 第12警務業務処理規程（抜粋）</p> <p>I 総則</p> <p>1 目的</p> <p>この規程は、<u>運輸</u>大臣が管理する第一種空港及び第二種空港並びに共用飛行場（<u>運輸省</u>の所管区域に限る。）等（以下「空港等」という。）において実施される空港警務業務の基準を定め、もって空港等の安全と秩序が的確に維持されるように図ること並びに地方公共団体が管理する空港において空港管理者が行う空港の秩序の維持に関する業務に係る助言、指導等を行う際の指針を定めることを目的とする。</p> <p>II 空港警務通常業務</p> <p>13. 月報及び年報の作成</p> <p>警務担当課長は、空港警務業務に関する警務業務月報（別添様式警-3）及び警務業務年報（別添様式警-4）を作成し、地方航空局<u>飛行場</u>部飛行場課長あて提出するものとする。</p> <p>VI その他</p> <p>2 空港警務業務運用要領等の制定</p> <p>(3) 所長は、運用要領を定め、改正し又は廃止したときは、地方航空局長を経由して航空局<u>飛行場</u>部管理課長に報告するものとする。</p>	<p>付録 7. 第12警務業務処理規程（抜粋）</p> <p>I 総則</p> <p>1 目的</p> <p>この規程は、<u>国土交通</u>大臣が管理する第一種空港及び第二種空港並びに共用飛行場（<u>国土交通省</u>の所管区域に限る。）等（以下「空港等」という。）において実施される空港警務業務の基準を定め、もって空港等の安全と秩序が的確に維持されるように図ること並びに地方公共団体が管理する空港において空港管理者が行う空港の秩序の維持に関する業務に係る助言、指導等を行う際の指針を定めることを目的とする。</p> <p>II 空港警務通常業務</p> <p>13. 月報及び年報の作成</p> <p>警務担当課長は、空港警務業務に関する警務業務月報（別添様式警-3）及び警務業務年報（別添様式警-4）を作成し、地方航空局<u>空港</u>部管理課長あて提出するものとする。</p> <p>VI その他</p> <p>2 空港警務業務運用要領等の制定</p> <p>(3) 所長は、運用要領を定め、改正し又は廃止したときは、地方航空局長を経由して航空局<u>空港</u>部管理課長に報告するものとする。</p>	1-2-58	省庁の名称との整合
<p>付録 8. 航空情報</p> <p>3. エアラック</p>	<p>付録 8. 航空情報</p> <p>3. エアラック</p>	1-2-61	字句の修正
<p>表付-2.8.1 エアラック<u>ノータム</u>指定日</p> <p>表省略</p>	<p>表付-2.8.1 エアラック指定日</p> <p>表省略</p>	1-2-64	字句の修正
<p>7. 空港整備に関する航空情報の発行手続き</p> <p>7-2 航空路誌改訂版及び航空路誌補足版の発行依頼期日</p> <p>1) エアラックによる航空路誌改訂版及び航空路誌補足版は発行日の 30 日前までに運航課へ必着のこと。</p> <p>(図付-2.8.1 を参照する。)</p> <p>図省略</p>	<p>7. 空港整備に関する航空情報の発行手続き</p> <p>7-2 航空路誌改訂版及び航空路誌補足版の発行依頼期日</p> <p>1) エアラックによる航空路誌改訂版及び航空路誌補足版は発行日の 30 日前までに運航課へ必着のこと。</p> <p>(図付-2.8.1 を参照する。)</p> <p>図省略</p>	1-2-75	字句の修正
<p>図付-2.8.1 エアラック<u>ノータム</u>発行依頼期日フローチャート</p>	<p>図付-2.8.1 エアラック発行依頼期日フローチャート</p>	1-2-80	字句の修正

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考
<p>付録9. エアラック <u>ノータム</u> の例</p> <p>参考文献 1) 国土交通省航空局：空港土木施設の<u>設計</u>基準解説，平成 20 年 7 月</p>	<p>付録9. エアラックの例</p> <p>参考文献 1) 国土交通省航空局：空港土木施設の<u>設置</u>基準解説，平成 20 年 7 月</p>	<p>1-2-82</p> <p>1-2-96</p>	<p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p>

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考																																																																																																																								
<p>第2編 用地造成編</p> <p>第1章 空港土工</p> <p>1. 2 調査</p> <p>1. 2. 2 気象調査</p> <p>[解説]</p> <p>(4) 代表的な調査項目と内容を以下に示す。</p> <p>(a) 降雨：排水設計における確率降雨強度の算定や、施工稼働日数の算出などに必要となる。なお、確率降雨強度の算定方法については、「<u>排水要領</u>」に準ずる。</p> <p>1. 2. 4 土質調査</p> <p>[2] 地表地質調査</p> <p>[解説]</p> <p style="text-align: center;">表-1.2.2 既存の空中写真の入手方法</p> <table border="1" data-bbox="261 871 1255 1409"> <thead> <tr> <th>撮影機関</th> <th>撮影区域</th> <th>撮影年</th> <th>縮尺</th> <th>カメラIS</th> <th>照会・頒布申込先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米軍</td> <td>日本全域</td> <td>1946 ~ 1948</td> <td>約 1/40,000</td> <td>メトログン1523</td> <td>日本地図センター*</td> </tr> <tr> <td>米軍</td> <td>鉄道沿線 主要平野部</td> <td>1946 ~ 1948</td> <td>約 1/10,000</td> <td>メトログン1523</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>林野庁および 都道府県林務課</td> <td>山地部</td> <td>1952~</td> <td>約 1/20,000</td> <td>主としてワイルド RC-5a, RC-8 21/18, 1523</td> <td>日本林業技術協会** 林野庁計画課 都道府県庁</td> </tr> <tr> <td>官公庁、公団、民間会社など</td> <td>日本各地 部分的</td> <td>1952~</td> <td>約 1/10,000 ~ 1/30,000</td> <td>各種</td> <td>撮影機関もしくは 空港測量会社</td> </tr> <tr> <td>国土地理院 (国土情報整備事業用)</td> <td>全国 (カラー)</td> <td>1974 ~ 1990</td> <td>平野部 1/8,000 ~1/10,000 山地部 1/15,000</td> <td>ツァイスRMK ワイルドRC-10, RC-8, 1523</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>国土地理院 (国土基本図用)</td> <td>平野部 (一部カラー)</td> <td>1960 ~ 1993 1994~</td> <td>一部 1/10,000 大部分 1/20,000 1/25,000~1/30,000</td> <td>ツァイスRMK または ワイルドRC-8, RC-10, RC-30, 1523</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>国土地理院</td> <td>ほぼ日本全域</td> <td>1964~</td> <td>約 1/40,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NTT-ME&TE</td> <td>全国主要都市 (カラー)</td> <td>1999</td> <td>約 1/12,500</td> <td>"</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>デジタル・アース・テクノロジー</td> <td>全国主要都市 (カラー)</td> <td>2001</td> <td>約 1/20,000</td> <td>"</td> <td>日本地図センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 〒305-0821 茨城県つくば市春日 3-1-8 (財) 日本地図センター 空中写真部 Tel.(029)851-6657 ** 〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日本林業技術協会 測量部 写真係 Tel.(03)3261-5281</p>	撮影機関	撮影区域	撮影年	縮尺	カメラIS	照会・頒布申込先	米軍	日本全域	1946 ~ 1948	約 1/40,000	メトログン1523	日本地図センター*	米軍	鉄道沿線 主要平野部	1946 ~ 1948	約 1/10,000	メトログン1523	日本地図センター	林野庁および 都道府県林務課	山地部	1952~	約 1/20,000	主としてワイルド RC-5a, RC-8 21/18, 1523	日本林業技術協会** 林野庁計画課 都道府県庁	官公庁、公団、民間会社など	日本各地 部分的	1952~	約 1/10,000 ~ 1/30,000	各種	撮影機関もしくは 空港測量会社	国土地理院 (国土情報整備事業用)	全国 (カラー)	1974 ~ 1990	平野部 1/8,000 ~1/10,000 山地部 1/15,000	ツァイスRMK ワイルドRC-10, RC-8, 1523	日本地図センター	国土地理院 (国土基本図用)	平野部 (一部カラー)	1960 ~ 1993 1994~	一部 1/10,000 大部分 1/20,000 1/25,000~1/30,000	ツァイスRMK または ワイルドRC-8, RC-10, RC-30, 1523	日本地図センター	国土地理院	ほぼ日本全域	1964~	約 1/40,000			NTT-ME&TE	全国主要都市 (カラー)	1999	約 1/12,500	"	日本地図センター	デジタル・アース・テクノロジー	全国主要都市 (カラー)	2001	約 1/20,000	"	日本地図センター	<p>第2編 用地造成編</p> <p>第1章 空港土工</p> <p>1. 2 調査</p> <p>1. 2. 2 気象調査</p> <p>[解説]</p> <p>(4) 代表的な調査項目と内容を以下に示す。</p> <p>(a) 降雨：排水設計における確率降雨強度の算定や、施工稼働日数の算出などに必要となる。なお、確率降雨強度の算定方法については、「<u>空港土木施設構造設計要領</u>」に準ずる。</p> <p>1. 2. 4 土質調査</p> <p>[2] 地表地質調査</p> <p>[解説]</p> <p style="text-align: center;">表-1.2.2 既存の空中写真の入手方法</p> <table border="1" data-bbox="1314 871 2309 1409"> <thead> <tr> <th>撮影機関</th> <th>撮影区域</th> <th>撮影年</th> <th>縮尺</th> <th>カメラIS</th> <th>照会・頒布申込先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米軍</td> <td>日本全域</td> <td>1946~1948</td> <td>約 1/40,000</td> <td>メトログン1523</td> <td>日本地図センター*</td> </tr> <tr> <td>米軍</td> <td>鉄道沿線 主要平野部</td> <td>1946~1948</td> <td>約 1/10,000</td> <td>メトログン1523</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>林野庁および 都道府県林務課</td> <td>山地部</td> <td>1952~</td> <td>約 1/20,000</td> <td>主としてワイルド RC-5a, RC-8 21/18, 1523</td> <td>日本林業技術協会** 林野庁計画課 都道府県庁</td> </tr> <tr> <td>官公庁、公団、民間会社など</td> <td>日本各地 部分的</td> <td>1952~</td> <td>約 1/10,000 ~ 1/30,000</td> <td>各種</td> <td>撮影機関もしくは 空港測量会社</td> </tr> <tr> <td>国土地理院 (国土情報整備事業用)</td> <td>全国 (カラー)</td> <td>1974~1990</td> <td>平野部 1/8,000 ~1/10,000 山地部 1/15,000</td> <td>ツァイスRMK ワイルドRC-10, RC-8, 1523</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>国土地理院 (国土基本図用)</td> <td>平野部 (一部カラー)</td> <td>1960~1993 1994~</td> <td>一部 1/10,000 大部分 1/20,000 1/25,000~1/30,000</td> <td>ツァイスRMK または ワイルドRC-8, RC-10, RC-30, 1523</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>国土地理院</td> <td>ほぼ日本全域</td> <td>1964~</td> <td>約 1/40,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NTT-ME&TE</td> <td>全国主要都市 (カラー)</td> <td>1999</td> <td>約 1/12,500</td> <td>"</td> <td>日本地図センター</td> </tr> <tr> <td>デジタル・アース・テクノロジー</td> <td>全国主要都市 (カラー)</td> <td>2001</td> <td>約 1/20,000</td> <td>"</td> <td>日本地図センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 〒305-0821 茨城県つくば市春日 3-1-8 (財) 日本地図センター 空中写真部 Tel.(029)851-6657 ** 〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日本林業技術協会 測量部 写真係 Tel.(03)3261-5281</p>	撮影機関	撮影区域	撮影年	縮尺	カメラIS	照会・頒布申込先	米軍	日本全域	1946~1948	約 1/40,000	メトログン1523	日本地図センター*	米軍	鉄道沿線 主要平野部	1946~1948	約 1/10,000	メトログン1523	日本地図センター	林野庁および 都道府県林務課	山地部	1952~	約 1/20,000	主としてワイルド RC-5a, RC-8 21/18, 1523	日本林業技術協会** 林野庁計画課 都道府県庁	官公庁、公団、民間会社など	日本各地 部分的	1952~	約 1/10,000 ~ 1/30,000	各種	撮影機関もしくは 空港測量会社	国土地理院 (国土情報整備事業用)	全国 (カラー)	1974~1990	平野部 1/8,000 ~1/10,000 山地部 1/15,000	ツァイスRMK ワイルドRC-10, RC-8, 1523	日本地図センター	国土地理院 (国土基本図用)	平野部 (一部カラー)	1960~1993 1994~	一部 1/10,000 大部分 1/20,000 1/25,000~1/30,000	ツァイスRMK または ワイルドRC-8, RC-10, RC-30, 1523	日本地図センター	国土地理院	ほぼ日本全域	1964~	約 1/40,000			NTT-ME&TE	全国主要都市 (カラー)	1999	約 1/12,500	"	日本地図センター	デジタル・アース・テクノロジー	全国主要都市 (カラー)	2001	約 1/20,000	"	日本地図センター	<p>2-1-15</p> <p>2-1-19</p>	<p>基準との整合</p> <p>字句の修正</p>
撮影機関	撮影区域	撮影年	縮尺	カメラIS	照会・頒布申込先																																																																																																																						
米軍	日本全域	1946 ~ 1948	約 1/40,000	メトログン1523	日本地図センター*																																																																																																																						
米軍	鉄道沿線 主要平野部	1946 ~ 1948	約 1/10,000	メトログン1523	日本地図センター																																																																																																																						
林野庁および 都道府県林務課	山地部	1952~	約 1/20,000	主としてワイルド RC-5a, RC-8 21/18, 1523	日本林業技術協会** 林野庁計画課 都道府県庁																																																																																																																						
官公庁、公団、民間会社など	日本各地 部分的	1952~	約 1/10,000 ~ 1/30,000	各種	撮影機関もしくは 空港測量会社																																																																																																																						
国土地理院 (国土情報整備事業用)	全国 (カラー)	1974 ~ 1990	平野部 1/8,000 ~1/10,000 山地部 1/15,000	ツァイスRMK ワイルドRC-10, RC-8, 1523	日本地図センター																																																																																																																						
国土地理院 (国土基本図用)	平野部 (一部カラー)	1960 ~ 1993 1994~	一部 1/10,000 大部分 1/20,000 1/25,000~1/30,000	ツァイスRMK または ワイルドRC-8, RC-10, RC-30, 1523	日本地図センター																																																																																																																						
国土地理院	ほぼ日本全域	1964~	約 1/40,000																																																																																																																								
NTT-ME&TE	全国主要都市 (カラー)	1999	約 1/12,500	"	日本地図センター																																																																																																																						
デジタル・アース・テクノロジー	全国主要都市 (カラー)	2001	約 1/20,000	"	日本地図センター																																																																																																																						
撮影機関	撮影区域	撮影年	縮尺	カメラIS	照会・頒布申込先																																																																																																																						
米軍	日本全域	1946~1948	約 1/40,000	メトログン1523	日本地図センター*																																																																																																																						
米軍	鉄道沿線 主要平野部	1946~1948	約 1/10,000	メトログン1523	日本地図センター																																																																																																																						
林野庁および 都道府県林務課	山地部	1952~	約 1/20,000	主としてワイルド RC-5a, RC-8 21/18, 1523	日本林業技術協会** 林野庁計画課 都道府県庁																																																																																																																						
官公庁、公団、民間会社など	日本各地 部分的	1952~	約 1/10,000 ~ 1/30,000	各種	撮影機関もしくは 空港測量会社																																																																																																																						
国土地理院 (国土情報整備事業用)	全国 (カラー)	1974~1990	平野部 1/8,000 ~1/10,000 山地部 1/15,000	ツァイスRMK ワイルドRC-10, RC-8, 1523	日本地図センター																																																																																																																						
国土地理院 (国土基本図用)	平野部 (一部カラー)	1960~1993 1994~	一部 1/10,000 大部分 1/20,000 1/25,000~1/30,000	ツァイスRMK または ワイルドRC-8, RC-10, RC-30, 1523	日本地図センター																																																																																																																						
国土地理院	ほぼ日本全域	1964~	約 1/40,000																																																																																																																								
NTT-ME&TE	全国主要都市 (カラー)	1999	約 1/12,500	"	日本地図センター																																																																																																																						
デジタル・アース・テクノロジー	全国主要都市 (カラー)	2001	約 1/20,000	"	日本地図センター																																																																																																																						

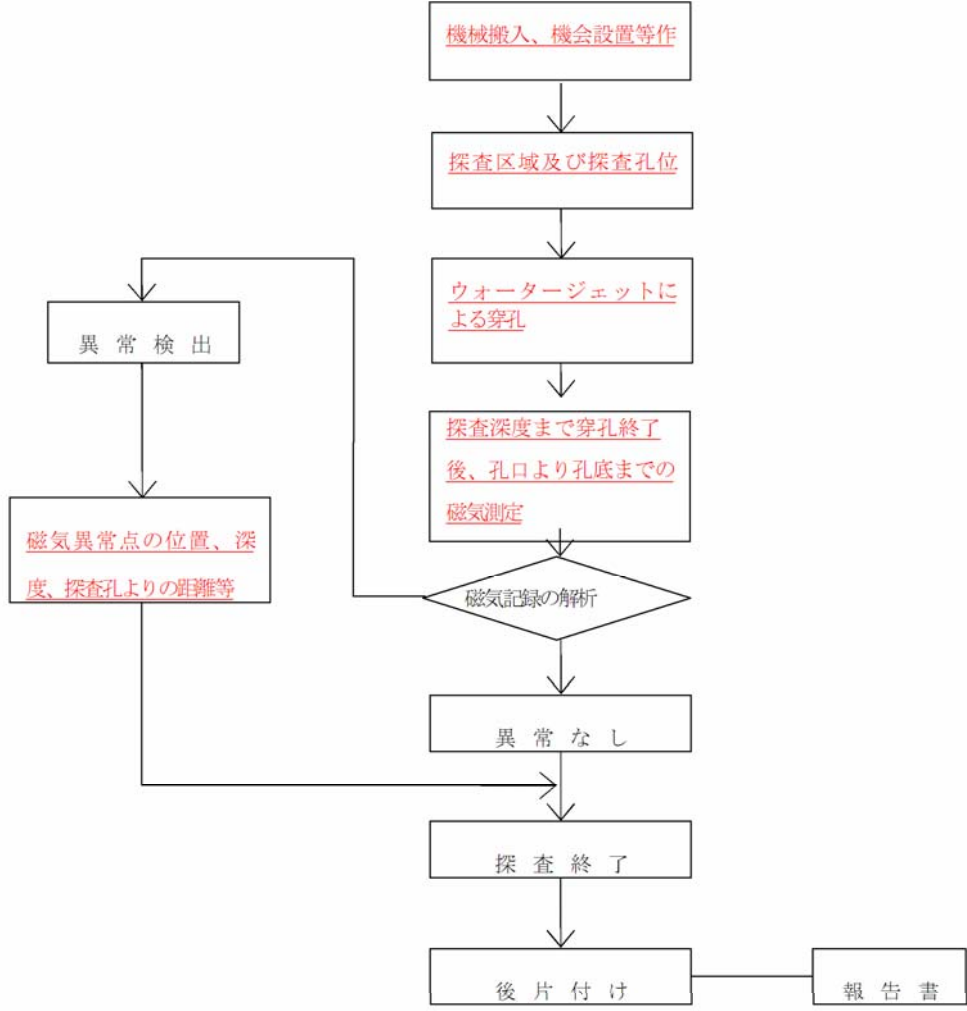
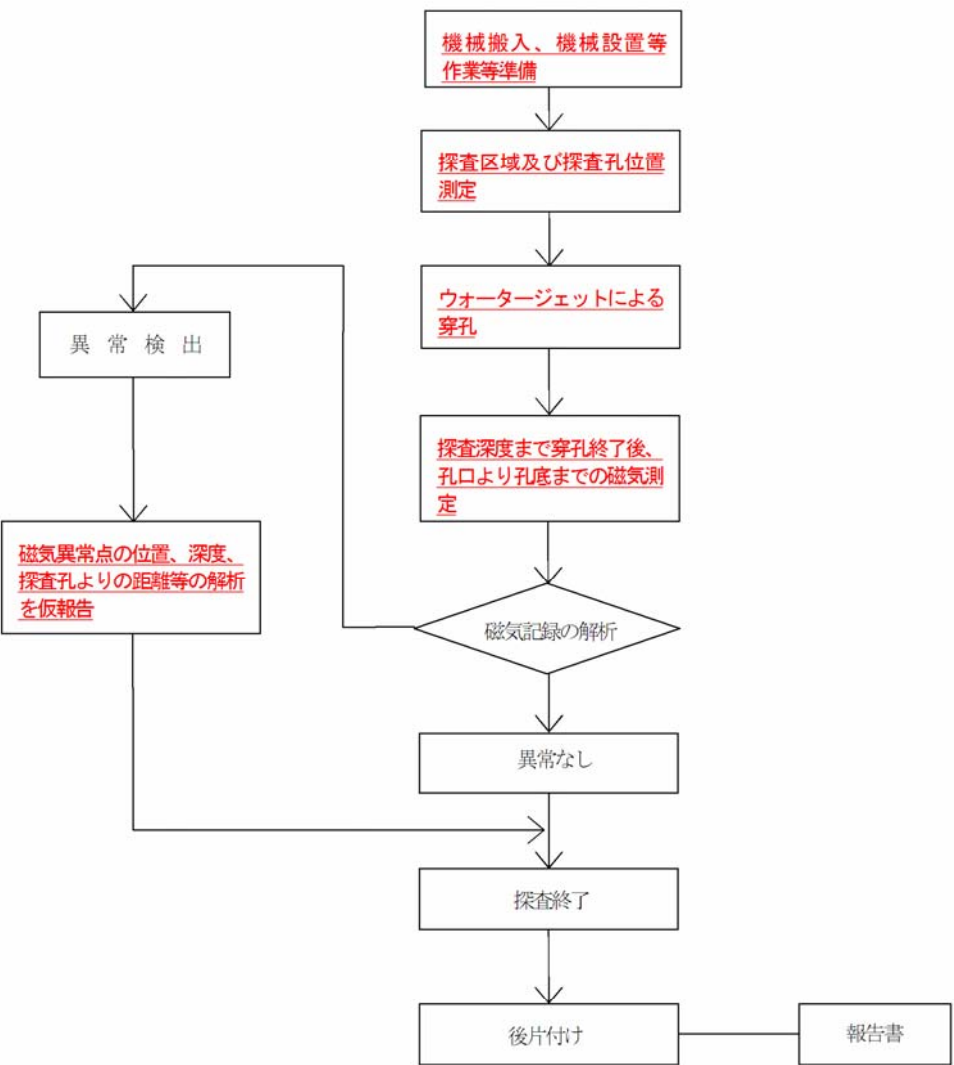
空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)													修正後													頁	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
表-1.2.3 既存資料から読取ることのできる地形・地質・地盤情報													表-1.2.3 既存資料から読取ることのできる地形・地質・地盤情報													2-1-19	字句の修正																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資料</th> <th>地形</th> <th>空中写真</th> <th>地質</th> <th>地盤</th> <th>地形分類図</th> <th>土地条件図</th> <th>土地利用図</th> <th>工事記録</th> <th>災害記録</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地</td> <td>得られる情報</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>形態</td> <td>中地地形 小地地形 微地地形</td> <td>◎ ◎ ○</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>○(基図に ○コンター 図使用)</td> <td>◎ ◎ ◎(微地形 分類図)</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>○ ○ ○</td> <td>○ ○ ○</td> <td>○ ○ ○</td> <td>○ ○ ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">形</td> <td>傾斜・起伏量</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">災害地形</td> <td>地すべり地形</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>崩壊地地形</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>土石流地形 (弱状地微地形) 洪水地微地形 (平野の微地形) 被災状況</td> <td>○ (大縮尺)</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> </tr> <tr> <td>地質</td> <td>岩相(岩種)</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">質</td> <td>未固結堆積物タイプ</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地層の走向・傾斜 断層・破碎帯 その他の割れ目系 不整合などの不連続性</td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>風化・変質状況</td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>地盤</td> <td>土質のタイプ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地盤</td> <td>土の力学的・物理的性質</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>地表の含水状況 軟弱地盤の分布やタイプ</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>													資料		地形	空中写真	地質	地盤	地形分類図	土地条件図	土地利用図	工事記録	災害記録					地	得られる情報												形態	中地地形 小地地形 微地地形	◎ ◎ ○	◎ ◎ ◎	○(基図に ○コンター 図使用)	◎ ◎ ◎(微地形 分類図)	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○			形	傾斜・起伏量		◎			○	◎	○					災害地形	地すべり地形	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	崩壊地地形	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	土石流地形 (弱状地微地形) 洪水地微地形 (平野の微地形) 被災状況	○ (大縮尺)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	地質	岩相(岩種)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	質	未固結堆積物タイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地層の走向・傾斜 断層・破碎帯 その他の割れ目系 不整合などの不連続性		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	風化・変質状況		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地盤	土質のタイプ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地盤	土の力学的・物理的性質				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地表の含水状況 軟弱地盤の分布やタイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資料</th> <th>地形</th> <th>空中写真</th> <th>地質</th> <th>地盤</th> <th>地形分類図</th> <th>土地条件図</th> <th>土地利用図</th> <th>工事記録</th> <th>災害記録</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地</td> <td>得られる情報</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>形態</td> <td>中地地形 小地地形 微地地形</td> <td>◎ ◎ ○</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>○(基図に ○コンター 図使用)</td> <td>◎ ◎ ◎(微地形 分類図)</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>○ ○ ○</td> <td>○ ○ ○</td> <td>○ ○ ○</td> <td>○ ○ ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">形</td> <td>傾斜・起伏量</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">災害地形</td> <td>地すべり地形</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>崩壊地地形</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>土石流地形 (弱状地微地形) 洪水地微地形 (平野の微地形) 被災状況</td> <td>○ (大縮尺)</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> <td>◎ ◎ ◎</td> </tr> <tr> <td>地質</td> <td>岩相(岩種)</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">質</td> <td>未固結堆積物タイプ</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地層の走向・傾斜 断層・破碎帯 その他の割れ目系 不整合などの不連続性</td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>風化・変質状況</td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>地盤</td> <td>土質のタイプ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地盤</td> <td>土の力学的・物理的性質</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>地表の含水状況 軟弱地盤の分布やタイプ</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>													資料		地形	空中写真	地質	地盤	地形分類図	土地条件図	土地利用図	工事記録	災害記録			地	得られる情報												形態	中地地形 小地地形 微地地形	◎ ◎ ○	◎ ◎ ◎	○(基図に ○コンター 図使用)	◎ ◎ ◎(微地形 分類図)	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○			形	傾斜・起伏量		◎			○	◎	○					災害地形	地すべり地形	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	崩壊地地形	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	土石流地形 (弱状地微地形) 洪水地微地形 (平野の微地形) 被災状況	○ (大縮尺)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	地質	岩相(岩種)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	質	未固結堆積物タイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地層の走向・傾斜 断層・破碎帯 その他の割れ目系 不整合などの不連続性		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	風化・変質状況		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地盤	土質のタイプ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地盤	土の力学的・物理的性質				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	地表の含水状況 軟弱地盤の分布やタイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
資料		地形	空中写真	地質	地盤	地形分類図	土地条件図	土地利用図	工事記録	災害記録																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
地	得られる情報																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	形態	中地地形 小地地形 微地地形	◎ ◎ ○	◎ ◎ ◎	○(基図に ○コンター 図使用)	◎ ◎ ◎(微地形 分類図)	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
形	傾斜・起伏量		◎			○	◎	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	災害地形	地すべり地形	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		崩壊地地形	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		土石流地形 (弱状地微地形) 洪水地微地形 (平野の微地形) 被災状況	○ (大縮尺)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
地質	岩相(岩種)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
質	未固結堆積物タイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	地層の走向・傾斜 断層・破碎帯 その他の割れ目系 不整合などの不連続性		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		風化・変質状況		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
地盤	土質のタイプ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
地盤	土の力学的・物理的性質				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	地表の含水状況 軟弱地盤の分布やタイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
資料		地形	空中写真	地質	地盤	地形分類図	土地条件図	土地利用図	工事記録	災害記録																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
地	得られる情報																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	形態	中地地形 小地地形 微地地形	◎ ◎ ○	◎ ◎ ◎	○(基図に ○コンター 図使用)	◎ ◎ ◎(微地形 分類図)	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
形	傾斜・起伏量		◎			○	◎	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	災害地形	地すべり地形	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		崩壊地地形	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		土石流地形 (弱状地微地形) 洪水地微地形 (平野の微地形) 被災状況	○ (大縮尺)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
地質	岩相(岩種)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
質	未固結堆積物タイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	地層の走向・傾斜 断層・破碎帯 その他の割れ目系 不整合などの不連続性		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		風化・変質状況		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
地盤	土質のタイプ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
地盤	土の力学的・物理的性質				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	地表の含水状況 軟弱地盤の分布やタイプ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
◎;よく把握できる ○;ある程度は把握できる、あるいは参考になる 無印;ほとんど把握できない													◎;よく把握できる ○;ある程度は把握できる、あるいは参考になる 無印;ほとんど把握できない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考																		
<p>1. 2. 5 工事現場の調査 〔1〕 支障物件の調査 〔解説〕 (1) 支障物件の調査は、全国測量地図、土地利用調査図、航空写真および現地調査などによって行われる。 主な調査項目と協議相手を表-1.2.15、1.2.16に示す。 これらの協議内容について、各々の物件ごとに関係者（所有者や手続きを必要とする協議相手）、調整手続き方法、調整手続きに要する期間、その他付随する事項などを整理記録しておくことが必要である。 物件によっては、協議、手続きに時間を要し、本工事工程に支障をきたす場合があるので、注意を要する。また、埋蔵文化財包蔵地が工事区域に存在する場合には、関係機関と十分な調整を行い事前調査などを実施しなければならない。 調査区域には、計画工事区域だけでなく、工事用道路や進入路、土捨場など施工のために必要と予想される場所も含めておくことが必要である。</p>	<p>1. 2. 5 工事現場の調査 〔1〕 支障物件の調査 〔解説〕 (1) 支障物件の調査は、全国測量地図、土地利用調査図、航空写真および現地調査などによって行われる。 主な調査項目と協議相手を表-1.2.14、1.2.15に示す。 これらの協議内容について、各々の物件ごとに関係者（所有者や手続きを必要とする協議相手）、調整手続き方法、調整手続きに要する期間、その他付随する事項などを整理記録しておくことが必要である。 物件によっては、協議、手続きに時間を要し、本工事工程に支障をきたす場合があるので、注意を要する。また、埋蔵文化財包蔵地が工事区域に存在する場合には、関係機関と十分な調整を行い事前調査などを実施しなければならない。 調査区域には、計画工事区域だけでなく、工事用道路や進入路、土捨場など施工のために必要と予想される場所も含めておくことが必要である。</p> <p style="text-align: center;">表-1.2.14 支障物件の協議</p> <table border="1" data-bbox="1311 835 2252 1942"> <thead> <tr> <th>支 障 物 件</th> <th>協 議 相 手 (管 理 者)</th> <th>協 議 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家屋などの建物</td> <td>所有者および使用者</td> <td>・ 移設または撤去の時期</td> </tr> <tr> <td>鉄塔・電柱</td> <td>電 信 電 話 会 社 電 力 会 社 そ の 他</td> <td>・ 移設または撤去の時期 ・ 補強する場合は時期および工法について協議</td> </tr> <tr> <td>墓</td> <td>寺 院 親 族</td> <td>・ 移設時期 ・ 法で定める手続き ・ 地域の慣習</td> </tr> <tr> <td>地下埋設物</td> <td>地 方 公 共 団 体 電 信 電 話 会 社 ガ ス 会 社 電 力 会 社 そ の 他</td> <td>・ 移設または撤去の時期および工法 ・ 補強する場合は時期および工法について協議 ・ 防護工法について協議</td> </tr> <tr> <td>埋蔵文化財</td> <td>文 化 庁 長 官 (教 育 委 員 会 に 委 任)</td> <td>・ 発掘予定地、面積など ・ 発掘の目的 ・ 発掘時期など</td> </tr> </tbody> </table>	支 障 物 件	協 議 相 手 (管 理 者)	協 議 内 容	家屋などの建物	所有者および使用者	・ 移設または撤去の時期	鉄塔・電柱	電 信 電 話 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・ 移設または撤去の時期 ・ 補強する場合は時期および工法について協議	墓	寺 院 親 族	・ 移設時期 ・ 法で定める手続き ・ 地域の慣習	地下埋設物	地 方 公 共 団 体 電 信 電 話 会 社 ガ ス 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・ 移設または撤去の時期および工法 ・ 補強する場合は時期および工法について協議 ・ 防護工法について協議	埋蔵文化財	文 化 庁 長 官 (教 育 委 員 会 に 委 任)	・ 発掘予定地、面積など ・ 発掘の目的 ・ 発掘時期など	<p>2-1-31</p> <p>2-1-31</p>	<p>表番号の修正</p> <p>表の挿入</p>
支 障 物 件	協 議 相 手 (管 理 者)	協 議 内 容																			
家屋などの建物	所有者および使用者	・ 移設または撤去の時期																			
鉄塔・電柱	電 信 電 話 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・ 移設または撤去の時期 ・ 補強する場合は時期および工法について協議																			
墓	寺 院 親 族	・ 移設時期 ・ 法で定める手続き ・ 地域の慣習																			
地下埋設物	地 方 公 共 団 体 電 信 電 話 会 社 ガ ス 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・ 移設または撤去の時期および工法 ・ 補強する場合は時期および工法について協議 ・ 防護工法について協議																			
埋蔵文化財	文 化 庁 長 官 (教 育 委 員 会 に 委 任)	・ 発掘予定地、面積など ・ 発掘の目的 ・ 発掘時期など																			

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考																										
	<p style="text-align: center;">表-1.2.15 横断構造物などの協議</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 30%;">名 称</th> <th style="width: 60%;">協議相手（管理者または管理を委任された者）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">河川</td> <td>一 級 河 川</td> <td>国土交通大臣</td> </tr> <tr> <td>二 級 河 川</td> <td>都道府県知事</td> </tr> <tr> <td>準 用 河 川</td> <td>市町村長</td> </tr> <tr> <td>普 通 河 川</td> <td>（河川法の適用を受けない）</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路</td> <td>国 道</td> <td>国土交通省地方整備局長、都道府県知事、政令指定都市長</td> </tr> <tr> <td>都 道 府 県 道</td> <td>都道府県知事、政令指定都市長</td> </tr> <tr> <td>市 町 村 道</td> <td>市町村長</td> </tr> <tr> <td>高 速 道 路</td> <td>公団など</td> </tr> <tr> <td>有 料 道 路</td> <td>公団、公社など</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鉄 道</td> <td>私鉄、JR、その他</td> </tr> </tbody> </table>		名 称	協議相手（管理者または管理を委任された者）	河川	一 級 河 川	国土交通大臣	二 級 河 川	都道府県知事	準 用 河 川	市町村長	普 通 河 川	（河川法の適用を受けない）	道路	国 道	国土交通省地方整備局長、都道府県知事、政令指定都市長	都 道 府 県 道	都道府県知事、政令指定都市長	市 町 村 道	市町村長	高 速 道 路	公団など	有 料 道 路	公団、公社など		鉄 道	私鉄、JR、その他	2-1-31	表の挿入
	名 称	協議相手（管理者または管理を委任された者）																											
河川	一 級 河 川	国土交通大臣																											
	二 級 河 川	都道府県知事																											
	準 用 河 川	市町村長																											
	普 通 河 川	（河川法の適用を受けない）																											
道路	国 道	国土交通省地方整備局長、都道府県知事、政令指定都市長																											
	都 道 府 県 道	都道府県知事、政令指定都市長																											
	市 町 村 道	市町村長																											
	高 速 道 路	公団など																											
	有 料 道 路	公団、公社など																											
	鉄 道	私鉄、JR、その他																											

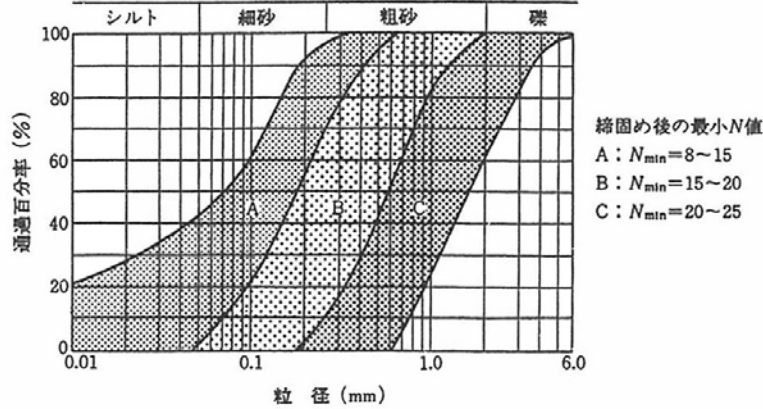
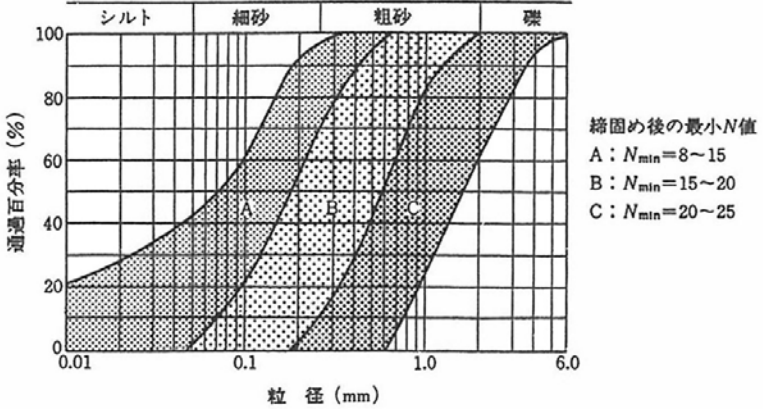
修正前 (H21.4)	修正後	頁	備考
<p>(3) 爆弾などの調査は磁気探査法により行う。 (a) 一次探査 調査対象区域について磁気探査を行い、磁気異常点の位置および深さを求める。</p>  <p>図-1.2.2 鉛直磁気探査の作業手順</p>	<p>(3) 爆弾などの調査は磁気探査法により行う。 (a) 一次探査 調査対象区域について磁気探査を行い、磁気異常点の位置および深さを求める。</p>  <p>図-1.2.2 鉛直磁気探査の作業手順</p>	<p>2-1-32</p>	<p>図の修正</p>

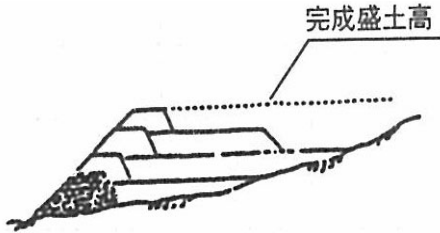
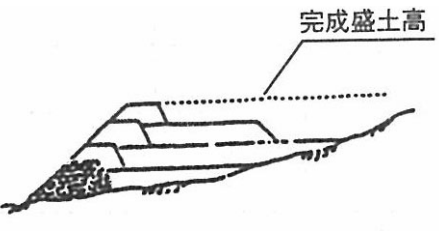
空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

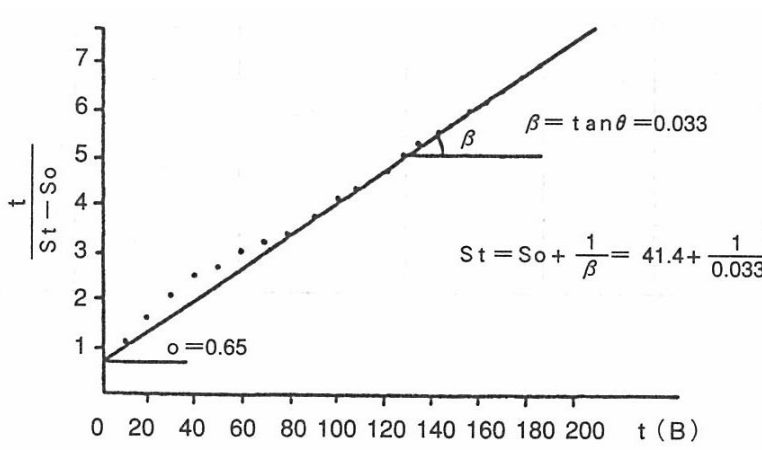
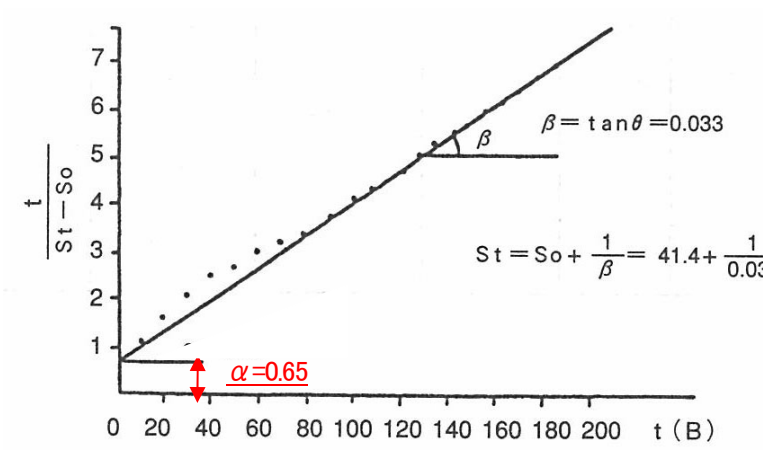
修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考																		
<p>[2] 法令、条令に関連した調査</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>空港のような大規模な開発を行う場合、法令、条例等による制限や規制を受ける。工事を進めるにあたって、該当する法・条例の内容を調査し、遵守する必要がある。</p> </div> <p>[解説]</p> <p>(1) 主な関連する法令等を表-1.2.17 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表-1.2.15 支障物件の協議</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">支障物件</th> <th style="width: 25%;">協議相手(管理者)</th> <th style="width: 60%;">協議内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家屋などの建物</td> <td>所有者および使用者</td> <td>・移設または撤去の時期</td> </tr> <tr> <td>鉄塔・電柱</td> <td>電 信 電 話 会 社 電 力 会 社 そ の 他</td> <td>・移設または撤去の時期 ・補強する場合は時期および工法について協議</td> </tr> <tr> <td>墓</td> <td>寺 院 親 族</td> <td>・移設時期 ・法で定める手続き ・地域の慣習</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地下埋設物</td> <td>水 道 管 下 水 道 管 通 信 管 ガ ス 管 電 線 地 方 公 共 団 体 電 信 電 話 会 社 ガ ス 会 社 電 力 会 社 そ の 他</td> <td>・移設または撤去の時期および工法 ・補強する場合は時期および工法について協議 ・防護工法について協議</td> </tr> <tr> <td>埋蔵文化財</td> <td>文 化 庁 長 官 (教育委員会に委任)</td> <td>・発掘予定地、面積など ・発掘の目的 ・発掘時期など</td> </tr> </tbody> </table>	支障物件	協議相手(管理者)	協議内容	家屋などの建物	所有者および使用者	・移設または撤去の時期	鉄塔・電柱	電 信 電 話 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・移設または撤去の時期 ・補強する場合は時期および工法について協議	墓	寺 院 親 族	・移設時期 ・法で定める手続き ・地域の慣習	地下埋設物	水 道 管 下 水 道 管 通 信 管 ガ ス 管 電 線 地 方 公 共 団 体 電 信 電 話 会 社 ガ ス 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・移設または撤去の時期および工法 ・補強する場合は時期および工法について協議 ・防護工法について協議	埋蔵文化財	文 化 庁 長 官 (教育委員会に委任)	・発掘予定地、面積など ・発掘の目的 ・発掘時期など	<p>[2] 法令、条令に関連した調査</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>空港のような大規模な開発を行う場合、法令、条例等による制限や規制を受ける。工事を進めるにあたって、該当する法令・条例等の内容を調査し、遵守する必要がある。</p> </div> <p>[解説]</p> <p>(1) 主な関連する法令等を表-1.2.17 に示す。</p>	<p>2-1-35</p> <p>2-1-35</p>	<p>字句の修正</p> <p>表の削除</p>
支障物件	協議相手(管理者)	協議内容																			
家屋などの建物	所有者および使用者	・移設または撤去の時期																			
鉄塔・電柱	電 信 電 話 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・移設または撤去の時期 ・補強する場合は時期および工法について協議																			
墓	寺 院 親 族	・移設時期 ・法で定める手続き ・地域の慣習																			
地下埋設物	水 道 管 下 水 道 管 通 信 管 ガ ス 管 電 線 地 方 公 共 団 体 電 信 電 話 会 社 ガ ス 会 社 電 力 会 社 そ の 他	・移設または撤去の時期および工法 ・補強する場合は時期および工法について協議 ・防護工法について協議																			
埋蔵文化財	文 化 庁 長 官 (教育委員会に委任)	・発掘予定地、面積など ・発掘の目的 ・発掘時期など																			

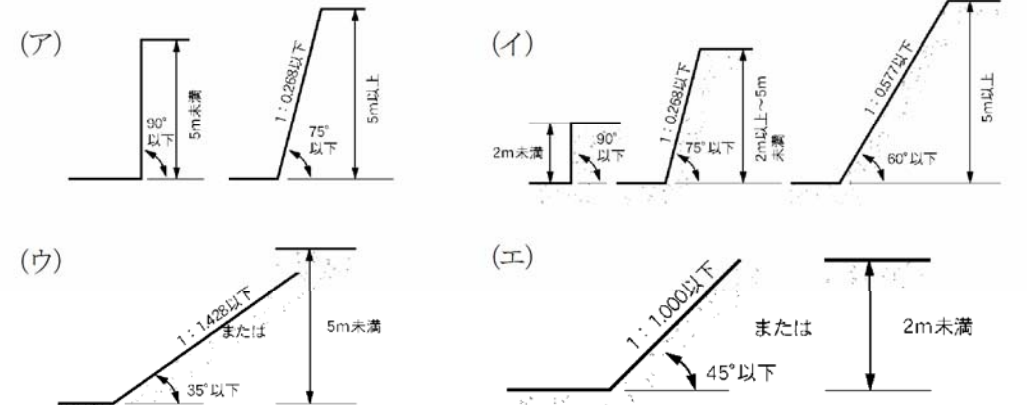
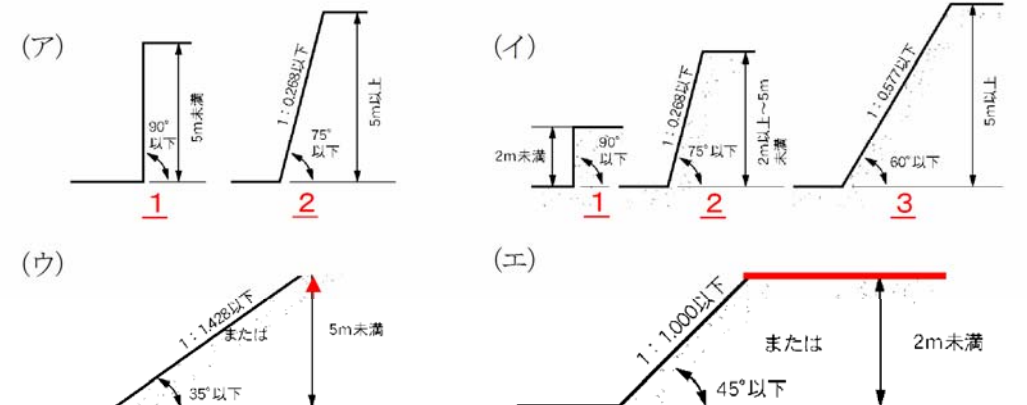
空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

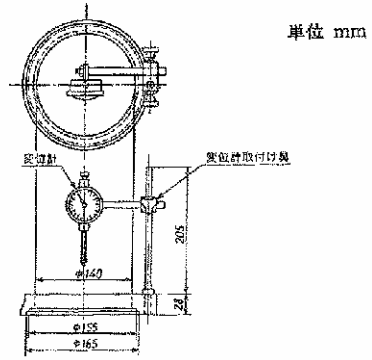
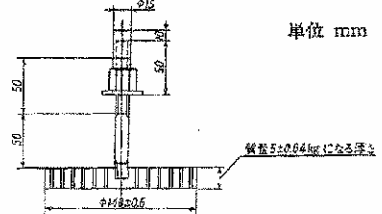
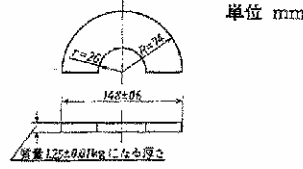

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考																										
<p style="text-align: center;">表-1.2.16 横断構造物などの協議</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">名</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">称</td> <td style="text-align: center;">協議相手 (管理者または管理を委任された者)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">河川</td> <td style="text-align: center;">一級河川</td> <td style="text-align: center;">国土交通大臣</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">二級河川</td> <td style="text-align: center;">都道府県知事</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">準用河川</td> <td style="text-align: center;">市町村長</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">普通河川</td> <td style="text-align: center;">(河川法の適用を受けない)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路</td> <td style="text-align: center;">国</td> <td style="text-align: center;">国土交通省地方整備局長、都道府県知事、政令指定都市長</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">都道府県道</td> <td style="text-align: center;">都道府県知事、政令指定都市長</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">市町村道</td> <td style="text-align: center;">市町村長</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">高速道路</td> <td style="text-align: center;">公団など</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">有料道路</td> <td style="text-align: center;">公団、公社など</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鉄</td> <td style="text-align: center;">道</td> <td style="text-align: center;">私鉄、JR、その他</td> </tr> </table> <p>1. 4 施工計画 1. 4. 2 土量の配分</p> <p>(1) 基本的には場内で土量のバランスをとるようにするが、場合によっては、全体よりも地区別のバランスを重視した方が、経済的、能率的な施工になる場合もある。</p>	名	称	協議相手 (管理者または管理を委任された者)	河川	一級河川	国土交通大臣	二級河川	都道府県知事	準用河川	市町村長	普通河川	(河川法の適用を受けない)	道路	国	国土交通省地方整備局長、都道府県知事、政令指定都市長	都道府県道	都道府県知事、政令指定都市長	市町村道	市町村長	高速道路	公団など	有料道路	公団、公社など	鉄	道	私鉄、JR、その他	<p>1. 4 施工計画 1. 4. 2 土量の配分</p> <p style="text-align: center;"><u>〔2〕 土量の配分</u></p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; color: red;">経済的、効率的な土工を行うため、切盛土量のバランスを考慮し、必要に応じ捨土、場外からの搬入などを検討し、合理的な土量の配分を決定しなければならない。</p> </div> <p><u>〔解説〕</u></p> <p>(1) 基本的には場内で土量のバランスをとるようにするが、場合によっては、全体よりも地区別のバランスを重視した方が、経済的、能率的な施工になる場合もある。</p>	<p>2-1-36</p> <p>2-1-85</p>	<p>表の削除</p> <p>字句の追加</p>
名	称	協議相手 (管理者または管理を委任された者)																											
河川	一級河川	国土交通大臣																											
	二級河川	都道府県知事																											
	準用河川	市町村長																											
	普通河川	(河川法の適用を受けない)																											
道路	国	国土交通省地方整備局長、都道府県知事、政令指定都市長																											
	都道府県道	都道府県知事、政令指定都市長																											
	市町村道	市町村長																											
	高速道路	公団など																											
	有料道路	公団、公社など																											
鉄	道	私鉄、JR、その他																											

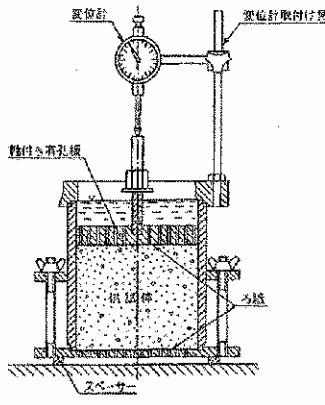
修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>1. 5 施工 1. 5. 4 地盤改良工 〔2〕 代表的な地盤改良工 [解説] (2) 締固めと圧縮による地盤改良 (c) バイブロフローテーション</p>  <p>締固め後の最小N値 A : $N_{min}=8\sim15$ B : $N_{min}=15\sim20$ C : $N_{min}=20\sim25$</p>	<p>1. 5 施工 1. 5. 4 地盤改良工 〔2〕 代表的な地盤改良工 [解説] (2) 締固めと圧縮による地盤改良 (c) バイブロフローテーション</p>  <p>締固め後の最小N値 A : $N_{min}=8\sim15$ B : $N_{min}=15\sim20$ C : $N_{min}=20\sim25$</p> <p>図-1.5.40 粒度とバイブロフローテーションの有効な範囲</p>	2-1-237	字句の追加

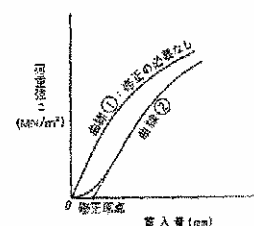
修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>1. 5. 5 法面工</p> <p>〔5〕法留工</p> <p>〔解説〕</p> <p>(7) 盛土の施工方法には、施工中に異常洪水が発生するおそれがある場合等の排水処理として法尻にかん止堤を設けて盛り立てる方法がある。このような方法は、空港用地内の末端で泥流等の流出を止め、下流域への影響を最小限にする対策の1つであり、法留工の機能・目的とは若干異なるため、設計においては十分に注意して検討を進める必要がある。</p> <p>なお、かん止堤とは、堆積した土砂などの崩壊または流出を防止するために設ける堤状の構造物であり、次のような種類がある。</p> <p>① 石塊かん止堤 堤体の大部分が石塊またはずりからなるかん止堤</p> <p>② 土かん止堤 堤体の大部分が粘性土材料または粘性土材料とずりなどの混合物からなるかん止堤</p> <p>③ 重力式かん止堤 <u>堤体がコンクリート</u></p> <p>④ 石積かん止堤 <u>堤体が石積によって構</u></p>  <p>図-1.5.87 かん止堤の概念図</p>	<p>1. 5. 5 法面工</p> <p>〔5〕法留工</p> <p>〔解説〕</p> <p>(7) 盛土の施工方法には、施工中に異常洪水が発生するおそれがある場合等の排水処理として法尻にかん止堤を設けて盛り立てる方法がある。このような方法は、空港用地内の末端で泥流等の流出を止め、下流域への影響を最小限にする対策の1つであり、法留工の機能・目的とは若干異なるため、設計においては十分に注意して検討を進める必要がある。</p> <p>なお、かん止堤とは、堆積した土砂などの崩壊または流出を防止するために設ける堤状の構造物であり、次のような種類がある。</p> <p>① 石塊かん止堤 堤体の大部分が石塊またはずりからなるかん止堤</p> <p>② 土かん止堤 堤体の大部分が粘性土材料または粘性土材料とずりなどの混合物からなるかん止堤</p> <p>③ 重力式かん止堤 <u>堤体がコンクリートで構築され、自重で安定を保つかん止堤</u></p> <p>④ 石積かん止堤 <u>堤体が石積によって構築され、自重で安定を保つかん止堤</u></p>  <p>図-1.5.87 かん止堤の概念図</p>	<p>2-1-296</p> <p>2-1-296</p>	<p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p>

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>1. 5. 9 動態観測 [解説] (3) 沈下管理</p>  <p>図-1.5.111 双曲線法による沈下量の推定</p>	<p>1. 5. 9 動態観測 [解説] (3) 沈下管理</p>  <p>図-1.5.111 双曲線法による沈下量の推定</p>	<p>2-1-332</p>	<p>図の修正</p>

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考																																																						
<p>1. 6. 5 安全管理</p> <p>[解説]</p> <p>(a) 掘削面の勾配の基準 (356条)</p> <p>手掘りなどの、掘削機械を用いないで行う掘削勾配は図-1.6.5のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="311 575 1270 953"> <thead> <tr> <th>地山の種類</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>掘削面の勾配</th> <th>模式図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(ア) 岩盤または硬い粘土からなる地山 (硬い粘土 → N 値 8 程度以上)</td> <td>5m 未満</td> <td>90 度以下</td> <td>ア-1</td> </tr> <tr> <td>5m 以上</td> <td>75 度(1:0.268)以下</td> <td>ア-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">(イ) その他の地山</td> <td>2m 未満</td> <td>90 度以下</td> <td>イ-1</td> </tr> <tr> <td>2m 以上 5m 未満</td> <td>75 度(1:0.268)以下</td> <td>イ-2</td> </tr> <tr> <td>5m 以上</td> <td>60 度(1:0.577)以下</td> <td>イ-3</td> </tr> <tr> <td>(ウ) 砂からなる地山</td> <td>掘削面の勾配 35 度 (1:1.428) 以下または高さ 5m 未満</td> <td>ウ-1</td> </tr> <tr> <td>(エ) 発破等で崩壊しやすい状態の地山</td> <td>掘削面の勾配 45 度 (1:1.000) 以下または高さ 2m 未満</td> <td>エ-1</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図-1.6.5 掘削面の勾配の基準</p>	地山の種類	掘削面の高さ	掘削面の勾配	模式図	(ア) 岩盤または硬い粘土からなる地山 (硬い粘土 → N 値 8 程度以上)	5m 未満	90 度以下	ア-1	5m 以上	75 度(1:0.268)以下	ア-2	(イ) その他の地山	2m 未満	90 度以下	イ-1	2m 以上 5m 未満	75 度(1:0.268)以下	イ-2	5m 以上	60 度(1:0.577)以下	イ-3	(ウ) 砂からなる地山	掘削面の勾配 35 度 (1:1.428) 以下または高さ 5m 未満	ウ-1	(エ) 発破等で崩壊しやすい状態の地山	掘削面の勾配 45 度 (1:1.000) 以下または高さ 2m 未満	エ-1	<p>1. 6. 5 安全管理</p> <p>[解説]</p> <p>(a) 掘削面の勾配の基準 (356条)</p> <p>手掘りなどの、掘削機械を用いないで行う掘削勾配は図-1.6.5のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表-1.6.10 掘削面の勾配の基準</p> <table border="1" data-bbox="1341 575 2300 953"> <thead> <tr> <th>地山の種類</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>掘削面の勾配</th> <th>模式図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(ア) 岩盤または硬い粘土からなる地山 (硬い粘土 → N 値 8 程度以上)</td> <td>5m 未満</td> <td>90 度以下</td> <td>ア-1</td> </tr> <tr> <td>5m 以上</td> <td>75 度(1:0.268)以下</td> <td>ア-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">(イ) その他の地山</td> <td>2m 未満</td> <td>90 度以下</td> <td>イ-1</td> </tr> <tr> <td>2m 以上 5m 未満</td> <td>75 度(1:0.268)以下</td> <td>イ-2</td> </tr> <tr> <td>5m 以上</td> <td>60 度(1:0.577)以下</td> <td>イ-3</td> </tr> <tr> <td>(ウ) 砂からなる地山</td> <td>掘削面の勾配 35 度 (1:1.428) 以下または高さ 5m 未満</td> <td>ウ</td> </tr> <tr> <td>(エ) 発破等で崩壊しやすい状態の地山</td> <td>掘削面の勾配 45 度 (1:1.000) 以下または高さ 2m 未満</td> <td>エ</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図-1.6.5 掘削面の勾配の基準</p>	地山の種類	掘削面の高さ	掘削面の勾配	模式図	(ア) 岩盤または硬い粘土からなる地山 (硬い粘土 → N 値 8 程度以上)	5m 未満	90 度以下	ア-1	5m 以上	75 度(1:0.268)以下	ア-2	(イ) その他の地山	2m 未満	90 度以下	イ-1	2m 以上 5m 未満	75 度(1:0.268)以下	イ-2	5m 以上	60 度(1:0.577)以下	イ-3	(ウ) 砂からなる地山	掘削面の勾配 35 度 (1:1.428) 以下または高さ 5m 未満	ウ	(エ) 発破等で崩壊しやすい状態の地山	掘削面の勾配 45 度 (1:1.000) 以下または高さ 2m 未満	エ	<p>2-1-372</p>	<p>字句の追加</p> <p>図の修正</p>
地山の種類	掘削面の高さ	掘削面の勾配	模式図																																																						
(ア) 岩盤または硬い粘土からなる地山 (硬い粘土 → N 値 8 程度以上)	5m 未満	90 度以下	ア-1																																																						
	5m 以上	75 度(1:0.268)以下	ア-2																																																						
(イ) その他の地山	2m 未満	90 度以下	イ-1																																																						
	2m 以上 5m 未満	75 度(1:0.268)以下	イ-2																																																						
	5m 以上	60 度(1:0.577)以下	イ-3																																																						
(ウ) 砂からなる地山	掘削面の勾配 35 度 (1:1.428) 以下または高さ 5m 未満	ウ-1																																																							
(エ) 発破等で崩壊しやすい状態の地山	掘削面の勾配 45 度 (1:1.000) 以下または高さ 2m 未満	エ-1																																																							
地山の種類	掘削面の高さ	掘削面の勾配	模式図																																																						
(ア) 岩盤または硬い粘土からなる地山 (硬い粘土 → N 値 8 程度以上)	5m 未満	90 度以下	ア-1																																																						
	5m 以上	75 度(1:0.268)以下	ア-2																																																						
(イ) その他の地山	2m 未満	90 度以下	イ-1																																																						
	2m 以上 5m 未満	75 度(1:0.268)以下	イ-2																																																						
	5m 以上	60 度(1:0.577)以下	イ-3																																																						
(ウ) 砂からなる地山	掘削面の勾配 35 度 (1:1.428) 以下または高さ 5m 未満	ウ																																																							
(エ) 発破等で崩壊しやすい状態の地山	掘削面の勾配 45 度 (1:1.000) 以下または高さ 2m 未満	エ																																																							

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
付録6. CBR試験方法 (JIS A 1211)	<p>付録6. CBR試験方法 (JIS A 1211)</p> <p>— A 1211 —</p> <p>4) 貫入量測定装置 貫入量測定装置は、最小目盛 1/100 mm、最大 20 mm まで測定できる変位計、又はこれと同等の性能をもつ電気式変位計とする。</p> <p>b) 膨張量測定装置 膨張量測定装置は、供試体の吸水膨張量を最小目盛 1/100 mm、最大 20 mm まで測定できる変位計及びその取付け具からなる。測定装置の例を図 3 に示す。</p> <p>c) 供試体作製器具</p> <p>1) 15 cm モールド、カラー、スペーサーディスク及び 4.5 kg ランマー これらの器具は、JIS A 1210 の 4. (試験器具) に規定するものとする。</p> <p>2) 有孔底板 有孔底板は、直径が 2 mm 以下のあなをもつものとする。</p> <p>d) その他の器具</p> <p>1) 軸付き有孔板 軸付き有孔板は、図 4 に示すような直径 148 ± 0.6 mm、あなの直径 2 mm 以下、質量 5 ± 0.04 kg の黄銅製のものとする。</p> <p>2) 荷重板 荷重板は、図 5 に示すように質量 1.25 ± 0.01 kg の鉛製のもの 4 個を用意する。</p> <p>3) 試料押し器、混合器具及び直ナイフ これらの器具は、JIS A 1210 の 4. に規定するものとする。</p> <p>4) はかり はかりは、10 g まで量ることのできるものとする。</p> <p>5) ふるい ふるいは、JIS Z 8801 に規定する試験用網ふるいで呼び寸法 37.5 mm のものとする。</p> <p>6) 含水比測定器具 含水比測定器具は、JIS A 1203 の 3. (試験器具) に規定するものとする。</p> <p>7) 水槽 水槽は、底板付きモールドが入り、供試体が水浸できるものとする。</p> <p>8) ストップウォッチ又は時計</p> <p>9) ろ紙</p> <p>5.2 乱さない土の CBR 試験装置及び器具 乱さない土の CBR 試験装置及び器具は、次のとおりとする。</p> <p>a) CBR 試験機 CBR 試験機は、5.1 a) に規定するものとする。</p> <p>b) 膨張量測定装置 膨張量測定装置は、5.1 b) に規定するものとする。</p> <p>c) 供試体作製器具 供試体作製器具は、5.1 c) に規定するもの及び次のものを用意する。</p> <p>1) カッターリング カッターリングは、図 6 に示すような内径 150 mm、高さ 50 mm の片刃の付いた鋼製のものとする。</p> <p>2) ジャッキ及び反力装置</p> <p>d) その他の器具 その他の器具は、5.1 d) に規定するものとする。ただし、ふるい及び混合器具は除く。</p> <p>6. 試料 締め固めた土の CBR 試験に用いる試料は、次のとおり準備する。</p> <p>なお、乱さない土の場合には、特別な準備は必要としない。</p> <p>a) 土を試験の目的によって、JIS A 1201 の 5. (試料の含水比調整) に規定する非乾燥法又は空気乾燥法によって調整した後、37.5 mm ふるいでふるい分けたものを試料とし、その含水比 w_0 (%) を求める。土が非常に湿ってふるいを通過させることができない場合は、特に目立つ粗大な粒子を手で取り除く程度でよい。</p>  <p>図 3 膨張量測定装置の例</p>  <p>図 4 軸付き有孔板の例</p>  <p>図 5 荷重板の例</p>  <p>図 6 カッターリングの例</p> <p>— 966 —</p>	2-1-410	字句及び図の挿入

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
	<p style="text-align: right;">— A 1211 —</p> <p>試料は、約 5 kg ずつ必要組数用意する。</p> <p>b) 試料の含水比を試験の目的に応じて自然含水比又は最適含水比で調整し、その含水比 w_h (%) を求める。ただし、自然含水比の場合には、w_h を w_n としてよい。最適含水比に調整する場合、最適含水比と試料の含水比との差異が CBR 試験結果に有意な差を生じるようであれば、改めて試料調整を行う。</p> <p>参考 通常、設計 CBR を求めるときは、自然含水比で試験を行い、修正 CBR を求めるときは、最適含水比で試験を行う。</p> <p>c) 試料の含水比が変わらないように保存する。</p> <p>7. 供試体の作製</p> <p>7.1 締め固めた土の供試体 締め固めた土の供試体は、次のとおり作製する。</p> <p>a) モールドと有孔底板の質量 m_1 (g) をはかる。</p> <p>b) カラーと有孔底板を結合したモールドにスペーサーディスクを入れ、その上ろ紙を敷く。</p> <p>c) 6. で準備した試料を用いて、JIS A 1210 の表 1 (突固め方法の種類) の突固め方法の呼び名 E 及び JIS A 1210 の 5. (試料) の (2)、(3) 及び (4) によって供試体を作製する。</p> <p>参考 突固め回数は、試験の目的に応じて変更する。設計 CBR を求めるときは突固め回数は、通常各層 67 回である。修正 CBR を求めるときは突固め回数は、各層 17 回、42 回及び 92 回の 3 種類である。</p> <p>d) モールドと有孔底板の外部に付いた土をよくふき取り、スペーサーディスクを取り外す。</p> <p>e) ろ紙を有孔底板の上に敷き、供試体を静かに転倒し、有孔底板に再び固定して、全体の質量 m_2 (g) をはかる。</p> <p>7.2 乱さない土の供試体 乱さない土の供試体は、次のとおり作製する。</p> <p>a) モールドと有孔底板の質量 m_1 (g) をはかる。</p> <p>b) 現場の代表的な箇所にかッターリングを付けたモールドを、反力装置とジャッキを用いて注意深く押し込み、試料を採取する。</p> <p>備考 モールドを押し込むことができない場合は、次のいずれかの方法で試料を採取する。モールドと供試体のすき間は、溶かしたパラフィンなどを用いて充てん(埋)する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 土の組織を壊めないように周囲を掘り、直径約 15 cm の円柱形に削りながらモールドをかぶせて採取する。 十分な大きさの土塊を採取して、直径約 15 cm、高さ約 17 cm の円柱形に成形し、これにモールドをかぶせてもよい。 <p>c) スペーサーディスクが入るように、スペーサーディスクその他の器具を用いて試料を押し出し、モールドの縁の面に合わせて直ナイフで試料の両端面を成形し、供試体を作製する。</p> <p>d) ろ紙を有孔底板の上に敷き、供試体を静かに転倒し、有孔底板をモールドに固定する。</p> <p>e) モールドと有孔底板の外部に付いた土をよくふき取り、全体の質量 m_2 (g) をはかる。</p> <p>f) 削り落とした試料を用いて含水比 w_h (%) を求める。</p> <p>8. 試験方法</p> <p>8.1 吸水膨張試験 吸水膨張試験は、次のとおり行う。</p> <p>a) 供試体の上面にろ紙を置き、その上に軸付き有孔板を載せる。</p> <p>b) これらを水槽内に水浸し、図 7 に示すようにモールドの縁に膨張量測定用のゲージホルダーと変位計を設置する。水浸後の膨張量の測定時間は、1 h、2 h、4 h、8 h、24 h、48 h、72 h 及び 96 h とする。ただし、膨張量が一定に落ち着いた場合は、水浸を途中で中止してもよい。</p> <p>c) 水中からモールドを取り出して軸付き有孔板を載せたまま静かに傾け、たまっている水を除き、約 15 分間静置する。ろ紙を除いてから全体の質量 m_3 (g) をはかる。</p> <p>8.2 貫入試験 貫入試験は、次のとおり行う。</p> <p>a) 貫入ピストンの断面積を求める。</p> <p>b) モールドに入った供試体の上に、荷重板を 4 個載せる。</p> <p>c) 載荷装置の貫入ピストンと供試体の中心線が一致するように供試体を載荷装置に設置し、供試体とピストンを密着させるために 0.05 kN 以下の荷重を加える。このときの荷重計及び貫入量測定装置の読みを初期値とする。</p> <p>d) 貫入ピストンを 1 mm/min の速さで貫入させ、貫入量が 0.5 mm、1.0 mm、1.5 mm、2.0 mm、2.5 mm、3.0 mm、4.0 mm、5.0 mm、7.5 mm、10.0 mm 及び 12.5</p> <div style="text-align: center;">  <p>図 7 吸水膨張試験の例</p> </div> <p style="text-align: right;">— 967 —</p>	2-410	字句及び図の挿入

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
	<p style="text-align: center;">-- A 1211 --</p> <p>mmのとき、荷重計の読みを記録する。貫入量が12.5 mmになる前に荷重計の読みが最大値に達したときは、そのときの荷重計の読みと貫入量を記録しておく。</p> <p>e) 試料押し出し器を用いてモールドから供試体を押し出し、含水比 w_1 (%) を求める。</p> <p>9. 計算 計算は、次のとおり行う。</p> <p>a) 供試体の湿潤密度及び乾燥密度は、次の式によって算出する。</p> $\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$ $\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + \frac{w_1}{100}}$ <p>ここに、ρ_t : 供試体の湿潤密度 (g/cm³) ρ_d : 供試体の乾燥密度 (g/cm³) m_1 : モールドと有孔底板の質量 (g) m_2 : 供試体とモールド及び有孔底板の質量 (g) V : モールドの容量 (2 209 cm³) w_1 : 供試体の含水比 (%)</p> <p>b) 供試体の膨張比は、次の式によって算出する。</p> $r_e = \frac{d_c}{h_0} \times 100$ <p>ここに、r_e : 供試体の膨張比 (%) d_c : 供試体の吸水膨張試験終了時の膨張量 (mm) h_0 : 供試体の最初の高さ (125 mm)</p> <p>参考 吸水膨張試験後の供試体の乾燥密度と平均含水比は、次の式によって算出する。</p> $\rho'_d = \frac{\rho'_t}{1 + \frac{r_e}{100}}$ $w' = \left(\frac{\rho'_t}{\rho'_d} - 1 \right) \times 100$ <p>ただし、$\rho'_t = \frac{m_2 - m_1}{V \left(1 + \frac{r_e}{100} \right)}$</p> <p>ここに、$\rho'_d$: 吸水膨張試験後の供試体の乾燥密度 (g/cm³) w' : 吸水膨張試験後の供試体の平均含水比 (%) m_2 : 吸水膨張試験後の供試体とモールド及び有孔底板の質量 (g) ρ'_t : 吸水膨張試験後の湿潤密度 (g/cm³)</p> <p>c) 貫入試験で読み取った荷重を貫入ピストンの断面積で除して荷重強さを求め、荷重強さ-貫入量曲線を描く。荷重強さ-貫入量曲線の初期の部分に図8の曲線①のような変曲点が生じる場合は、変曲点以降の直線部分を延長し、横軸との交点を貫入量の修正原点とする。 なお、荷重強さを荷重で表してもよい。この場合は、荷重-貫入量曲線という。</p> <p>d) CBRは、貫入量2.5 mm, 5.0 mmそれぞれにおける荷重強さを荷重強さ-貫入量曲線から求め、各々の貫入量に対応する標準荷重強さを用いて、次の式によって算出する。</p> $CBR = \frac{q}{q_0} \times 100$ <p>ここに、CBR : CBR試験結果の算出値 (%) q : 所定の貫入量における荷重強さ (MN/m²) q_0 : 所定の貫入量における標準荷重強さ (MN/m²) (表1参照)</p> <p>備考 貫入試験結果を荷重で整理した場合は、2.5 mm, 5.0 mmそれぞれにおける標準荷重を用いて CBRを次の式によって算出する。</p> $CBR = \frac{Q}{Q_0} \times 100$ <p>ここに、Q : 所定の貫入量における荷重 (kN) Q_0 : 所定の貫入量における標準荷重 (kN) (表1参照)</p> <div style="text-align: right;">  <p>図8 荷重強さ-貫入量曲線</p> </div> <p style="text-align: center;">-- 968 --</p>	2-410	字句及び図の挿入

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考									
	<div style="text-align: right;">— A 1211 —</div> <p style="text-align: center;">表 1 標準荷重強さ及び標準荷重の値</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>貫入量 mm</th> <th>標準荷重強さ MN/m²</th> <th>標準荷重 kN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5</td> <td>6.9</td> <td>13.4</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>10.3</td> <td>19.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>e) CBRは、貫入量2.5 mmにおける値とする。ただし、貫入量5.0 mmにおける CBRが貫入量2.5 mmのものより大きい場合には、必要に応じて、改めて供試体を作り直して試験を行い、再び同じ結果を得たときは、貫入量5.0 mmのときの CBRを採用する。 参考 複数の供試体で同じ条件の試験を行い、そのすべてにおいて貫入量5.0 mmにおける CBRが貫入量2.5 mmのものより大きい場合は、貫入量5.0 mmのときの CBRを採用する。</p> <p>10. 報告 試験結果については、次の事項を報告する。</p> <p>a) 締め固めた土の CBR試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 試料準備の方法(非乾燥法、空気乾燥法) 2) 供試体の含水比及び乾燥密度 最適含水比で供試体を作製した場合、試料の準備に空気乾燥を用いたときは、空気乾燥前の含水比と最適含水比、非乾燥法を用いたときは、自然含水比と最適含水比も併せて報告する。 3) 膨張比 4) 貫入試験後の含水比 5) CBR及びそれに対応する貫入量 6) その他特記すべき事項 採取試料の37.5 mm以上の土粒子の質量百分率を報告することが望ましい。 <p>b) 乱さない土の CBR試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 供試体の含水比及び乾燥密度 2) 膨張比 3) 貫入試験後の含水比 4) CBR及びそれに対応する貫入量 <div style="text-align: right;">— 969 —</div>	貫入量 mm	標準荷重強さ MN/m ²	標準荷重 kN	2.5	6.9	13.4	5.0	10.3	19.9	2-410	字句及び図
貫入量 mm	標準荷重強さ MN/m ²	標準荷重 kN										
2.5	6.9	13.4										
5.0	10.3	19.9										

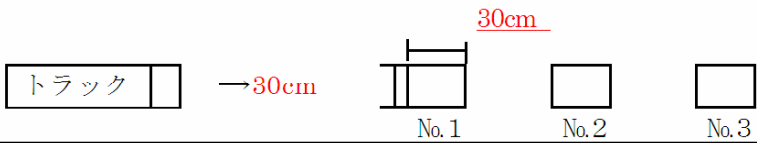
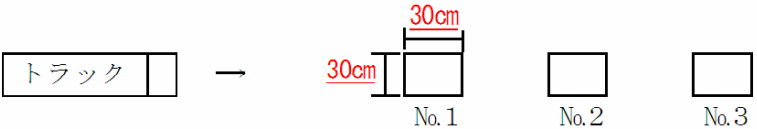
空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

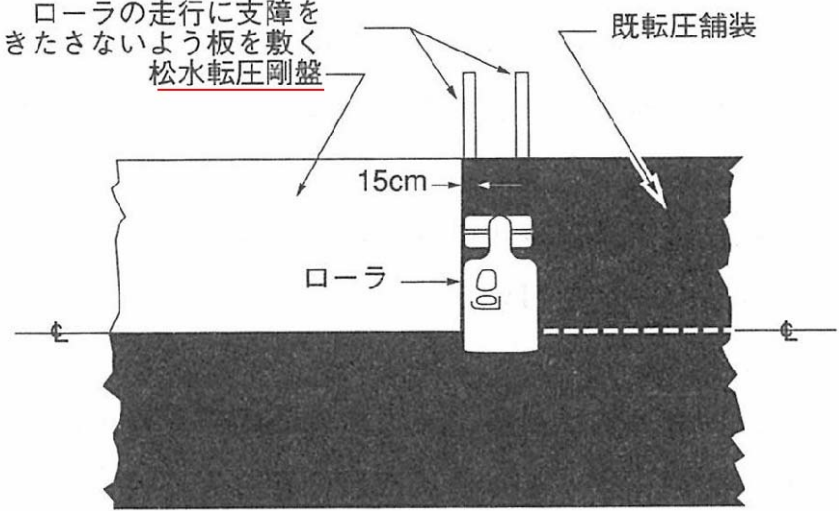
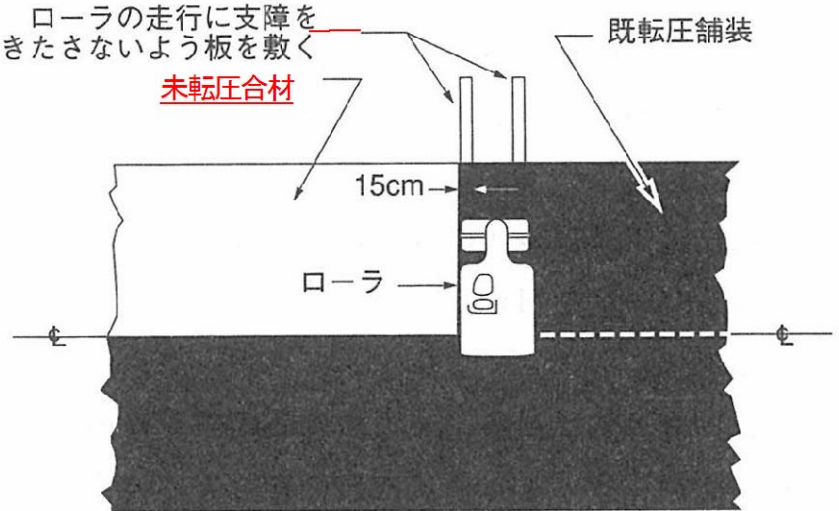
修正前 (H21.4)	修正後	頁	備考																																																																																																																
<p>第3編 基本施設舗装編 第1章 コンクリート舗装工 1.4.3 コンクリート 〔4〕 細骨材 〔解説〕</p> <p>表-1.4.5 有害物含有量の限度（質量百分率）</p> <table border="1" data-bbox="350 562 1205 842"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>最 大 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粘土塊</td> <td>1.0(注1)</td> </tr> <tr> <td>微粒分量試験で失われるもの</td> <td>3.0(注2)</td> </tr> <tr> <td>石灰、亜炭などで比重 1.95 の液体に浮くもの</td> <td>0.5(注3)</td> </tr> <tr> <td>塩化物（塩化物イオン量）</td> <td>0.04(注4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.5.5 コンクリート版舗設工 〔3〕 配合設計 〔解説〕</p> <p>(8) 示方配合の表示方法の例を表-1.5.10 に示す。</p> <p>表-1.5.10 示方配合の表示方法の例</p> <table border="1" data-bbox="261 1241 1279 1598"> <thead> <tr> <th rowspan="2">粗骨材の最大寸法 (mm)</th> <th colspan="2">スランプの目標値</th> <th colspan="2">空気量の目標値</th> <th rowspan="2">水・セメント比 W/C (%)</th> <th rowspan="2">単粗骨材容積</th> <th colspan="6">単位量 (kg/m³)</th> </tr> <tr> <th>プラント (cm)</th> <th>現場 (cm)</th> <th>プラント (cm)</th> <th>現場 (cm)</th> <th>水 W</th> <th>セメント C</th> <th>細骨材 S</th> <th>粗骨材 G</th> <th>混和剤</th> <th>混和剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2">1 設計基準曲げ強度 (N/mm²)</td> <td colspan="2">2 配合強度 (N/mm²)</td> <td colspan="2">3 セメントの種類</td> <td colspan="2">4 細骨材の種類</td> <td colspan="2">5 細骨材の FM</td> <td colspan="2">6 粗骨材の種類</td> <td colspan="2">7 粗骨材の空げき率</td> <td colspan="2">8 混和剤の種類</td> <td colspan="2">9 運搬時間</td> <td colspan="2">10 施工時期</td> <td colspan="2">11 その他</td> </tr> </tbody> </table> <p>(9) 所要の空気量を得るのに必要な単位AE剂量は、セメントの性質、単位水量および単位セメント量、骨材の粒度および粒形、ミキサの容量、練混ぜ時間、コンクリートの温度などによって相違するものであるから、空気量試験を行って決めなければならない。</p>	種 類	最 大 値	粘土塊	1.0(注1)	微粒分量試験で失われるもの	3.0(注2)	石灰、亜炭などで比重 1.95 の液体に浮くもの	0.5(注3)	塩化物（塩化物イオン量）	0.04(注4)	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの目標値		空気量の目標値		水・セメント比 W/C (%)	単粗骨材容積	単位量 (kg/m³)						プラント (cm)	現場 (cm)	プラント (cm)	現場 (cm)	水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤	混和剤	備考	1 設計基準曲げ強度 (N/mm²)		2 配合強度 (N/mm²)		3 セメントの種類		4 細骨材の種類		5 細骨材の FM		6 粗骨材の種類		7 粗骨材の空げき率		8 混和剤の種類		9 運搬時間		10 施工時期		11 その他		<p>第3編 基本施設舗装編 第1章 コンクリート舗装工 1.4.3 コンクリート 〔4〕 細骨材 〔解説〕</p> <p>表-1.4.5 <u>細骨材</u>の有害物含有量の限度（質量百分率）</p> <table border="1" data-bbox="1403 562 2258 842"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>最 大 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粘土塊</td> <td>1.0(注1)</td> </tr> <tr> <td>微粒分量試験で失われるもの</td> <td>3.0(注2)</td> </tr> <tr> <td>石灰、亜炭などで比重 1.95 の液体に浮くもの</td> <td>0.5(注3)</td> </tr> <tr> <td>塩化物（塩化物イオン量）</td> <td>0.04(注4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.5.5 コンクリート版舗設工 〔3〕 配合設計 〔解説〕</p> <p>(8) 示方配合の表示方法の例を表-1.5.10 に示す。</p> <p>表-1.5.10 示方配合の表示方法の例</p> <table border="1" data-bbox="1314 1241 2332 1598"> <thead> <tr> <th rowspan="2">粗骨材の最大寸法 (mm)</th> <th colspan="2">スランプの目標値</th> <th colspan="2">空気量の目標値</th> <th rowspan="2">水・セメント比 W/C (%)</th> <th rowspan="2">単粗骨材容積</th> <th colspan="6">単位量 (kg/m³)</th> </tr> <tr> <th>プラント (cm)</th> <th>現場 (cm)</th> <th>プラント (cm)</th> <th>現場 (cm)</th> <th>水 W</th> <th>セメント C</th> <th>細骨材 S</th> <th>粗骨材 G</th> <th>混和剤</th> <th>混和剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2">1 設計基準曲げ強度 (N/mm²)</td> <td colspan="2">2 配合強度 (N/mm²)</td> <td colspan="2">3 セメントの種類</td> <td colspan="2">4 細骨材の種類</td> <td colspan="2">5 細骨材の FM</td> <td colspan="2">6 粗骨材の種類</td> <td colspan="2">7 粗骨材の空げき率</td> <td colspan="2">8 混和剤の種類</td> <td colspan="2">9 運搬時間</td> <td colspan="2">10 施工時期</td> <td colspan="2">11 その他</td> </tr> </tbody> </table> <p>(9) 所要の空気量を得るのに必要な単位AE剂量は、セメントの性質、単位水量および単位セメント量、骨材の粒度および粒径、ミキサの容量、練混ぜ時間、コンクリートの温度などによって相違するものであるから、空気量試験を行って決めなければならない。</p>	種 類	最 大 値	粘土塊	1.0(注1)	微粒分量試験で失われるもの	3.0(注2)	石灰、亜炭などで比重 1.95 の液体に浮くもの	0.5(注3)	塩化物（塩化物イオン量）	0.04(注4)	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの目標値		空気量の目標値		水・セメント比 W/C (%)	単粗骨材容積	単位量 (kg/m³)						プラント (cm)	現場 (cm)	プラント (cm)	現場 (cm)	水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤	混和剤	備考	1 設計基準曲げ強度 (N/mm²)		2 配合強度 (N/mm²)		3 セメントの種類		4 細骨材の種類		5 細骨材の FM		6 粗骨材の種類		7 粗骨材の空げき率		8 混和剤の種類		9 運搬時間		10 施工時期		11 その他		<p>3-1-27</p> <p>3-1-63</p> <p>3-1-63</p>	<p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p>
種 類	最 大 値																																																																																																																		
粘土塊	1.0(注1)																																																																																																																		
微粒分量試験で失われるもの	3.0(注2)																																																																																																																		
石灰、亜炭などで比重 1.95 の液体に浮くもの	0.5(注3)																																																																																																																		
塩化物（塩化物イオン量）	0.04(注4)																																																																																																																		
粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの目標値		空気量の目標値		水・セメント比 W/C (%)	単粗骨材容積	単位量 (kg/m³)																																																																																																												
	プラント (cm)	現場 (cm)	プラント (cm)	現場 (cm)			水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤	混和剤																																																																																																							
備考	1 設計基準曲げ強度 (N/mm²)		2 配合強度 (N/mm²)		3 セメントの種類		4 細骨材の種類		5 細骨材の FM		6 粗骨材の種類		7 粗骨材の空げき率		8 混和剤の種類		9 運搬時間		10 施工時期		11 その他																																																																																														
種 類	最 大 値																																																																																																																		
粘土塊	1.0(注1)																																																																																																																		
微粒分量試験で失われるもの	3.0(注2)																																																																																																																		
石灰、亜炭などで比重 1.95 の液体に浮くもの	0.5(注3)																																																																																																																		
塩化物（塩化物イオン量）	0.04(注4)																																																																																																																		
粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの目標値		空気量の目標値		水・セメント比 W/C (%)	単粗骨材容積	単位量 (kg/m³)																																																																																																												
	プラント (cm)	現場 (cm)	プラント (cm)	現場 (cm)			水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤	混和剤																																																																																																							
備考	1 設計基準曲げ強度 (N/mm²)		2 配合強度 (N/mm²)		3 セメントの種類		4 細骨材の種類		5 細骨材の FM		6 粗骨材の種類		7 粗骨材の空げき率		8 混和剤の種類		9 運搬時間		10 施工時期		11 その他																																																																																														

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>[5] 機械舗設作業</p> <p>(4) 敷均し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分離しないように、また均一な密度が得られるように行わなければならない。スプレッダは、コンクリートを全面にわたって密度が均等で、材料が分離することなく、型枠やスリッパ、ダイバーなどのすみずみまでゆきわたるように、また適切な余盛を考慮して敷き均さなければならない。</p> <p>特に目地の位置は、あらかじめ型枠上に標示し、目地の中間でコンクリート打設を中止してはならない。</p> <p>コンクリート打設作業中に降雨により直ちに作業を中止する場合、あるいはやむを得ず作業を中止する場合には再開後の打設コンクリート版との接続、補強のため所定の鉄筋を入れなければならない。</p> </div> <p>1. 5. 12 特殊工法</p> <p>[3] インターロッキングブロック舗装 (ILB舗装)</p> <p>[解説]</p> <p>(4) 詳細については、インターロッキングブロック舗装設計施工要領（車道編）（財）土木研究センター、インターロッキングブロック協会などを参照する。</p> <p>[4] 転圧コンクリート舗装 (RCCP)</p> <p>[解説]</p> <p>(3) 詳細については、転圧コンクリート舗装技術指針 (案)（(社) 日本道路協会）などを参照する。</p>	<p>[5] 機械舗設作業</p> <p>(4) 敷均し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コンクリートの敷均しは、材料が分離しないように、また均一な密度が得られるように行わなければならない。スプレッダは、コンクリートを全面にわたって密度が均等で、材料が分離することなく、型枠やダウエルバー、ダイバーなどのすみずみまでゆきわたるように、また適切な余盛を考慮して敷き均さなければならない。</p> <p>特に目地の位置は、あらかじめ型枠上に表示し、目地の中間でコンクリート打設を中止してはならない。</p> <p>コンクリート打設作業中に降雨により直ちに作業を中止する場合、あるいはやむを得ず作業を中止する場合には再開後の打設コンクリート版との接続、補強のため所要の鉄筋を入れなければならない。</p> </div> <p>1. 5. 12 特殊工法</p> <p>[3] インターロッキングブロック舗装 (ILB舗装)</p> <p>[解説]</p> <p>(4) 詳細については、インターロッキングブロック舗装設計施工要領（車道編）（財）土木研究センター、(社)インターロッキングブロック舗装技術協会などを参照する。</p> <p>[4] 転圧コンクリート舗装 (RCCP)</p> <p>[解説]</p> <p>(3) 詳細については、舗装設計施工指針（(社) 日本道路協会）などを参照する。</p>	<p>3-1-73</p> <p>3-1-116</p> <p>3-1-117</p>	<p>字句の修正</p> <p>発行機関名の修正</p> <p>基準との整合</p>

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考																																																		
<p>第2章 アスファルト舗装工</p> <p>2. 4 材 料</p> <p>2. 4. 3 瀝青材料</p> <p>〔2〕 舗装用石油アスファルト</p> <p>[解説]</p> <p>(1) 舗装用石油アスファルトの品質規格は表-2.4.3 のとおりである。</p> <p>(2)アスファルト混合物に使用する舗装用石油アスファルトの種類としては、一般に針入度60～80および80～100が用いられ、施工性、耐久性、たわみ性および安定性などを考慮して、温暖地域では60～80を、寒冷地域では80～100 の舗装用石油アスファルトを使用している。</p>	<p>第2章 アスファルト舗装工</p> <p>2. 4 材 料</p> <p>2. 4. 3 瀝青材料</p> <p>〔2〕 舗装用石油アスファルト</p> <p>[解説]</p> <p>(1) 舗装用石油アスファルトの品質規格は表-2.4.3 のとおりである。</p> <p>(2)アスファルト混合物に使用する舗装用石油アスファルトの種類としては、一般に針入度60～80および80～100が用いられ、施工性、耐久性、たわみ性および安定性などを考慮して、温暖地域では60～80を、寒冷地域では80～100 の舗装用石油アスファルトを使用している。</p> <p style="text-align: center;"><u>表-2.4.3 舗装用石油アスファルトの品質規格</u> (日本道路協会規格)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">種 類 項 目</th> <th>40 ～ 60</th> <th>60 ～ 80</th> <th>80 ～ 100</th> <th>100 ～ 120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">針入度 (25°C) 1/10 mm</td> <td>40 を越え 60 以下</td> <td>60 を越え 80 以下</td> <td>80 を越え 100 以下</td> <td>100 を越え 120 以下</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">軟 化 点 °C</td> <td>47.0～55.0</td> <td>44.0～52.0</td> <td>42.0～50.0</td> <td>40.0～50.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">伸 度 (15°C) cm</td> <td>10 以上</td> <td>100 以上</td> <td>100 以上</td> <td>100 以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">トルエン可溶分 %</td> <td>99.0 以上</td> <td>99.0 以上</td> <td>99.0 以上</td> <td>99.0 以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">引 火 点 °C</td> <td>260 以上</td> <td>260 以上</td> <td>260 以上</td> <td>260 以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">薄膜加熱質量 変化率 %</td> <td>0.6 以下</td> <td>0.6 以下</td> <td>0.6 以下</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">薄膜加熱針入度 残留率 %</td> <td>58 以上</td> <td>55 以上</td> <td>50 以上</td> <td>50 以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">蒸発後の針入度比%</td> <td>110 以下</td> <td>110 以下</td> <td>110 以下</td> <td>110 以下</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">密 度 (15°C) g/cm³</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 各種類とも 120°C、150°C、180°Cのそれぞれにおける動粘度を試験表に付記する。</p>	種 類 項 目	40 ～ 60	60 ～ 80	80 ～ 100	100 ～ 120	針入度 (25°C) 1/10 mm	40 を越え 60 以下	60 を越え 80 以下	80 を越え 100 以下	100 を越え 120 以下	軟 化 点 °C	47.0～55.0	44.0～52.0	42.0～50.0	40.0～50.0	伸 度 (15°C) cm	10 以上	100 以上	100 以上	100 以上	トルエン可溶分 %	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	引 火 点 °C	260 以上	260 以上	260 以上	260 以上	薄膜加熱質量 変化率 %	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	薄膜加熱針入度 残留率 %	58 以上	55 以上	50 以上	50 以上	蒸発後の針入度比%	110 以下	110 以下	110 以下	110 以下	密 度 (15°C) g/cm ³	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	3-2-34	表の追加
種 類 項 目	40 ～ 60	60 ～ 80	80 ～ 100	100 ～ 120																																																	
針入度 (25°C) 1/10 mm	40 を越え 60 以下	60 を越え 80 以下	80 を越え 100 以下	100 を越え 120 以下																																																	
軟 化 点 °C	47.0～55.0	44.0～52.0	42.0～50.0	40.0～50.0																																																	
伸 度 (15°C) cm	10 以上	100 以上	100 以上	100 以上																																																	
トルエン可溶分 %	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上																																																	
引 火 点 °C	260 以上	260 以上	260 以上	260 以上																																																	
薄膜加熱質量 変化率 %	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下																																																	
薄膜加熱針入度 残留率 %	58 以上	55 以上	50 以上	50 以上																																																	
蒸発後の針入度比%	110 以下	110 以下	110 以下	110 以下																																																	
密 度 (15°C) g/cm ³	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上																																																	

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考																																								
<p>2. 5 施工 2. 5. 5 基層および表層工 〔5〕 舗設作業 (3) プライムコート 〔解説〕</p> <p>(6) 散布量の確認方法の一例を以下に示す。</p> <p>(a) 目標散布量 0.8 ℓ/㎡の場合</p> <p>図-2.5.7 のように散布車両の走行ラインに 30cm×30cm のスポンジマットを数枚敷いて、散布機によって材料を実際に散布しながら一定の速度で走行させて、散布後すばやく材料を含んだスポンジを回収し、その重量を測定する。</p> <p>測定の結果により 1 ㎡当りの散布量を換算した値 (χ) が、$\chi > 0.8 \text{ ℓ/㎡}$であれば合格とし、合格した速度で散布するよう指示する。</p> <hr/>  <table border="1" data-bbox="368 1150 1219 1354"> <thead> <tr> <th></th> <th>No.1</th> <th>No.2</th> <th>No.3</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(スポンジマット) 重量</td> <td>70 g</td> <td>70 g</td> <td>70 g</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(スポンジマット) 散布後重量</td> <td>145.5g</td> <td>147.0g</td> <td>143.5g</td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>75.5g</td> <td>77.0g</td> <td>73.5g</td> <td>平均値 75.3g</td> </tr> </tbody> </table> <p>(比重：1) $75.3\text{g}/(0.30\text{m} \times 0.30\text{m}) = 0.836 \text{ ℓ/㎡} > 0.8 \text{ ℓ/㎡}$ OK (χ)</p> <p>図-2.5.7 プライマー散布量確認例</p>		No.1	No.2	No.3		(スポンジマット) 重量	70 g	70 g	70 g		(スポンジマット) 散布後重量	145.5g	147.0g	143.5g		差引	75.5g	77.0g	73.5g	平均値 75.3g	<p>2. 5 施工 2. 5. 5 基層および表層工 〔5〕 舗設作業 (3) プライムコート 〔解説〕</p> <p>(6) 散布量の確認方法の一例を以下に示す。</p> <p>(a) 目標散布量 0.8 ℓ/㎡の場合</p> <p>図-2.5.7 のように散布車両の走行ラインに 30cm×30cm のスポンジマットを数枚敷いて、散布機によって材料を実際に散布しながら一定の速度で走行させて、散布後すばやく材料を含んだスポンジを回収し、その重量を測定する。</p> <p>測定の結果により 1 ㎡当りの散布量を換算した値 (χ) が、$\chi > 0.8 \text{ ℓ/㎡}$であれば合格とし、合格した速度で散布するよう指示する。</p> <hr/>  <table border="1" data-bbox="1415 1150 2267 1354"> <thead> <tr> <th></th> <th>No.1</th> <th>No.2</th> <th>No.3</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(スポンジマット) 重量</td> <td>70 g</td> <td>70 g</td> <td>70 g</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(スポンジマット) 散布後重量</td> <td>145.5g</td> <td>147.0g</td> <td>143.5g</td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>75.5g</td> <td>77.0g</td> <td>73.5g</td> <td>平均値 75.3g</td> </tr> </tbody> </table> <p>(比重：1) $75.3\text{g}/(0.30\text{m} \times 0.30\text{m}) = 0.836 \text{ ℓ/㎡} > 0.8 \text{ ℓ/㎡}$ OK (χ)</p> <p>図-2.5.7 プライマー散布量確認例</p>		No.1	No.2	No.3		(スポンジマット) 重量	70 g	70 g	70 g		(スポンジマット) 散布後重量	145.5g	147.0g	143.5g		差引	75.5g	77.0g	73.5g	平均値 75.3g	3-2-113	図の修正
	No.1	No.2	No.3																																								
(スポンジマット) 重量	70 g	70 g	70 g																																								
(スポンジマット) 散布後重量	145.5g	147.0g	143.5g																																								
差引	75.5g	77.0g	73.5g	平均値 75.3g																																							
	No.1	No.2	No.3																																								
(スポンジマット) 重量	70 g	70 g	70 g																																								
(スポンジマット) 散布後重量	145.5g	147.0g	143.5g																																								
差引	75.5g	77.0g	73.5g	平均値 75.3g																																							

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>(7) 継目 [解説]</p> <p>(6) 横継目の施工</p>  <p>図-2.5.11 横継目の転圧</p>	<p>(7) 継目 [解説]</p> <p>(6) 横継目の施工</p>  <p>図-2.5.11 横継目の転圧</p>	3-2-121	図の修正
<p>2. 5. 6 付帯工事</p> <p>[1] グルーピング</p> <p>[解説]</p> <p>(1) グルーピングの形状、施工範囲などの詳細については、「空港土木施設設計基準」を参照する。</p> <p>寒冷地空港においては、路面の凍結による航空機のスリップを防止するため、主として誘導路の直角回転部にグルーピングを実施した例もある。</p> <p>[2] 飛行場標識</p> <p>[解説]</p> <p>(1) 飛行場標識の形状、設置位置、色彩などの詳細については、「空港土木施設の設置基準」を参照する。</p>	<p>2. 5. 6 付帯工事</p> <p>[1] グルーピング</p> <p>[解説]</p> <p>(1) グルーピングの形状、施工範囲などの詳細については、「<u>空港土木施設の設置基準解説</u>」を参照する。</p> <p>寒冷地空港においては、路面の凍結による航空機のスリップを防止するため、主として誘導路の直角回転部にグルーピングを実施した例もある。</p> <p>[2] 飛行場標識</p> <p>[解説]</p> <p>(1) 飛行場標識の形状、設置位置、色彩などの詳細については、「<u>空港土木施設の設置基準解説</u>」を参照する</p>	3-2-125	字句の修正
		3-125	字句の修正

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>2. 5. 7 特殊工法</p> <p>〔3〕 その他の特殊工法</p> <p>〔解説〕</p> <p>(2) グースアスファルト舗装</p> <p>グースアスファルト混合物は、ストレートアスファルトに精製トリニダッドアスファルトなどの改質材を混合したアスファルトと、粗骨材、細骨材およびフィラーを配合してプラントで混合したのち、流し込み施工が可能な作業性（流動性）と安定性が得られるようにクツカのなかで高温で攪拌、混合したものが一般的である。</p> <p>グースアスファルトは、照明工事の埋設配管戻しの際に使用された事例がある。詳細については、アスファルト舗装要綱などを参照する。</p> <p>2. 5. 8 維持補修</p> <p>〔2〕 路上表層再生工法</p> <p>〔解説〕</p> <p>(2) 詳細については、路上表層再生工法技術指針（案）を参照する。</p> <p>参考文献</p> <p>18) 日本道路協会：排水工指針，平成 16 年</p>	<p>2. 5. 7 特殊工法</p> <p>〔3〕 その他の特殊工法</p> <p>〔解説〕</p> <p>(2) グースアスファルト舗装</p> <p>グースアスファルト混合物は、ストレートアスファルトに精製トリニダッドアスファルトなどの改質材を混合したアスファルトと、粗骨材、細骨材およびフィラーを配合してプラントで混合したのち、流し込み施工が可能な作業性（流動性）と安定性が得られるようにクツカのなかで高温で攪拌、混合したものが一般的である。</p> <p>グースアスファルトは、照明工事の埋設配管戻しの際に使用された事例がある。詳細については、舗装施工便覧などを参照する。</p> <p>2. 5. 8 維持補修</p> <p>〔2〕 路上表層再生工法</p> <p>〔解説〕</p> <p>(2) 詳細については、舗装再生便覧を参照する。</p> <p>参考文献</p> <p>18) 日本道路協会：道路土工排水工指針，昭和 62 年</p>	<p>3-2-130</p> <p>3-2-132</p> <p>3-2-157</p>	<p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p>

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考																																																																																																																																										
<p>付録4. プラント配合、試験練りおよび現場配合の決定例</p> <p>1. プラント配合の決定</p> <p>3) ホットビンごとの配合比と合成粒度</p> <p>加熱した骨材の配合比および合成粒度の設定は次の手順による。</p> <p>① 図付-2.4.1 を用いて表付-2.4.2 に示すように、それぞれの使用骨材に対する変速モータの速度目盛りを決定する。</p> <p>② ①で決定した速度目盛りで実際にプラントを操作し、加熱骨材をホットビンにためる。</p> <p>③ 各ホットビンから加熱した骨材の試料を採取して、その粒度を調べる。</p> <p>④ 表付-2.4.1 に示す骨材の合成粒度を目標にして、各ホットビンの配合比および合成粒度を設定する。</p>	<p>付録4. プラント配合、試験練りおよび現場配合の決定例</p> <p>1. プラント配合の決定</p> <p>3) ホットビンごとの配合比と合成粒度</p> <p>加熱した骨材の配合比および合成粒度の設定は次の手順による。</p> <p>① 図付-2.4.1 を用いて表付-2.4.2 に示すように、それぞれの使用骨材に対する変速モータの速度目盛りを決定する。</p> <p>② ①で決定した速度目盛りで実際にプラントを操作し、加熱骨材をホットビンにためる。</p> <p>③ 各ホットビンから加熱した骨材の試料を採取して、その粒度を調べる。</p> <p>④ 表付-2.4.1 に示す骨材の合成粒度を目標にして、各ホットビンの配合比および合成粒度を設定する。</p> <p>各ホットビンの粒度、配合比および合成粒度は表付-2.4.3 に示すとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表付-2.4.3 ホットビンの配合比および合成粒度</p> <table border="1" data-bbox="1314 877 2279 1612"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>ふるい目</th> <th>20 mm</th> <th>13 mm</th> <th>5 mm</th> <th>2.5 mm</th> <th>600 μm</th> <th>300 μm</th> <th>150 μm</th> <th>75 μm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各骨材の粒度%</td> <td>① ホットビン No.3</td> <td>100</td> <td>98.7</td> <td>11.8</td> <td>0.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② " No.2</td> <td></td> <td>100</td> <td>96.6</td> <td>12.2</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ " No.1</td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>96.2</td> <td>57.7</td> <td>24.5</td> <td>7.4</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>④ 石粉</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>99.6</td> <td>95.2</td> <td>85.3</td> </tr> <tr> <td>⑤ 回収ダスト*</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>99.9</td> <td>99.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">骨材の配合比%</td> <td>① 38</td> <td>38.0</td> <td>37.5</td> <td>4.5</td> <td>0.2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 20</td> <td></td> <td>20.0</td> <td>19.3</td> <td>2.4</td> <td>0.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 36.5</td> <td></td> <td></td> <td>36.5</td> <td>35.1</td> <td>21.1</td> <td>8.9</td> <td>2.7</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>④ 5.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5.0</td> <td>5.0</td> <td>4.8</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>⑤ 0.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>加熱した骨材の合成粒度 (%)</td> <td>100</td> <td>99.5</td> <td>65.8</td> <td>43.2</td> <td>26.7</td> <td>14.4</td> <td>8.0</td> <td>5.8</td> </tr> <tr> <td>骨材の合成粒度 (%)</td> <td>100</td> <td>98.3</td> <td>65.0</td> <td>43.0</td> <td>27.1</td> <td>14.3</td> <td>7.8</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>室内配合における合成粒度 (%)</td> <td>100</td> <td>97.5</td> <td>64.5</td> <td>42.3</td> <td>26.8</td> <td>14.2</td> <td>7.6</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td>標準配合の粒度範囲 (%)</td> <td>100</td> <td>100~95</td> <td>70~55</td> <td>50~35</td> <td>30~18</td> <td>21~10</td> <td>16~6</td> <td>8~4</td> </tr> </tbody> </table> <p>*バグフィルタによる回収ダスト</p> <p>なお、付表-2.4.3 に記す回収ダストの配合比は次のようにして定めたものである。</p> $\text{1時間当りの回収ダスト量} = \frac{V_o (a - b)}{1000} = \frac{24000 \times (14 - 0.0)}{1000} = 336 \text{ kg/h}$ <p>ただし、V_o : 排ガス量 (約 24000Nm³/h)</p> <p style="text-align: center;">a : バグフィルタ流入前の排ガス中の粉じん量 (13~15g/Nm³)</p>	種類	ふるい目	20 mm	13 mm	5 mm	2.5 mm	600 μm	300 μm	150 μm	75 μm	各骨材の粒度%	① ホットビン No.3	100	98.7	11.8	0.5					② " No.2		100	96.6	12.2	0.6				③ " No.1			100	96.2	57.7	24.5	7.4	2.8	④ 石粉					100	99.6	95.2	85.3	⑤ 回収ダスト*						100	99.9	99.8	骨材の配合比%	① 38	38.0	37.5	4.5	0.2					② 20		20.0	19.3	2.4	0.1				③ 36.5			36.5	35.1	21.1	8.9	2.7	1.0	④ 5.0					5.0	5.0	4.8	4.3	⑤ 0.5						0.5	0.5	0.5	加熱した骨材の合成粒度 (%)	100	99.5	65.8	43.2	26.7	14.4	8.0	5.8	骨材の合成粒度 (%)	100	98.3	65.0	43.0	27.1	14.3	7.8	5.7	室内配合における合成粒度 (%)	100	97.5	64.5	42.3	26.8	14.2	7.6	5.6	標準配合の粒度範囲 (%)	100	100~95	70~55	50~35	30~18	21~10	16~6	8~4	<p>3-2-170</p>	<p>図及び字句の挿入</p>
種類	ふるい目	20 mm	13 mm	5 mm	2.5 mm	600 μm	300 μm	150 μm	75 μm																																																																																																																																				
各骨材の粒度%	① ホットビン No.3	100	98.7	11.8	0.5																																																																																																																																								
	② " No.2		100	96.6	12.2	0.6																																																																																																																																							
	③ " No.1			100	96.2	57.7	24.5	7.4	2.8																																																																																																																																				
	④ 石粉					100	99.6	95.2	85.3																																																																																																																																				
	⑤ 回収ダスト*						100	99.9	99.8																																																																																																																																				
骨材の配合比%	① 38	38.0	37.5	4.5	0.2																																																																																																																																								
	② 20		20.0	19.3	2.4	0.1																																																																																																																																							
	③ 36.5			36.5	35.1	21.1	8.9	2.7	1.0																																																																																																																																				
	④ 5.0					5.0	5.0	4.8	4.3																																																																																																																																				
	⑤ 0.5						0.5	0.5	0.5																																																																																																																																				
加熱した骨材の合成粒度 (%)	100	99.5	65.8	43.2	26.7	14.4	8.0	5.8																																																																																																																																					
骨材の合成粒度 (%)	100	98.3	65.0	43.0	27.1	14.3	7.8	5.7																																																																																																																																					
室内配合における合成粒度 (%)	100	97.5	64.5	42.3	26.8	14.2	7.6	5.6																																																																																																																																					
標準配合の粒度範囲 (%)	100	100~95	70~55	50~35	30~18	21~10	16~6	8~4																																																																																																																																					

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考
	<p style="text-align: center;"><u>b : バグフィルタ通過後の排ガス中の粉じん量 (0.0g/Nm³以下)</u></p> <p style="text-align: center;"><u>混合物製造量に対する回収ダスト量の比</u></p> $= \frac{\text{1時間当りの回収ダスト量 (kg/h)}}{\text{1時間当りの混合物製造量 (kg/h)}} \times 100$ $= \frac{336 \text{ (kg/h)}}{1000 \text{ (kg/バッチ)} \times 3600 \text{ (秒)} \div 60 \text{ (秒)}} \times 100$ <p style="text-align: center;"><u>=0.56%</u></p>		

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p><u>① わだちぼれなどの山と谷の差が概ね 3 c m以上の範囲（縦*横）および落差、その他の異常を記録する。</u></p> <p><u>② くぼみは目視でわかるものは全て、範囲（縦*横*深さ）を記録する。</u></p> <p><u>(14) 段差</u></p> <p><u>① 構造物付近の段差は概ね 10mm以上の段差（段差と長さ）を記録する。 アスファルト舗装についても同様とする。</u></p> <p><u>② 舗装版の段差は概ね 10mm以上の段差（段差と長さ）を記録する。 アスファルト舗装についても同様とする。</u></p> <p><u>(15) 磨耗</u></p> <p><u>磨耗は概ね 50 c m*50 c m以上の範囲（縦*横と状況）を記録し、わかれば異常の区分を記録する。</u></p> <p><u>(16) 崩壊</u></p> <p><u>崩壊は目視でわかるものは全て、範囲（縦*横）を記録し、わかれば異常の区分を記録する。</u></p> <p><u>(17) グルーピング形状</u></p> <p><u>① グルーピングの角欠け、目潰れは目視でわかるものは全て、範囲（縦*横）を記録し、わかれば異常の区分を記録する。</u></p> <p><u>② グルーピングのゆがみは、舗装の流動化、層間剥離の兆候を示すもので、範囲（縦*横）を記録する。</u></p> <p><u>(18) 目地破損</u></p> <p><u>① 目地材破損は概ね長さ 1m以上の破損部延長を記録する。</u></p> <p><u>② 目地端部欠損は概ね片側の幅 5 c m以上の欠損範囲（縦*横）を記録する。</u></p> <p><u>(19) 座屈</u></p> <p><u>座屈は目視でわかるものは全て、範囲（縦*横）を記録し、わかれば異常の区分を記録する。</u></p> <p><u>(20) 表面の状態</u></p> <p><u>① コンクリート舗装面の損傷は目視でわかるものは全て、範囲（縦*横）を記録し、わかれば異常の区分を記録する。</u></p> <p><u>②アスファルト舗装面の損傷は目視でわかるものは全て、範囲（縦*横）を記録し、わかれば異常の区分を記録する。</u></p> <p><u>③ ブリスタリングの変状箇所は、打音調査により位置を確認し、変状箇所を囲む範囲にペイントにより丸印のマーキングを行い、状況写真を撮影する。</u></p> <p><u>④ 表面の変状状態の幅、長さを測定し、変状の種類、形状および位置を写真とともに調査票に記録する。</u></p> <p><u>(21) 標識の状況</u></p> <p><u>① マーキングに不鮮明な部分がある場合には全て、種別および位置を記録する。</u></p> <p><u>② 標識塗装が磨り減って薄くなっている部分や、剥離している部分の範囲（縦*横）を記録する。</u></p> <p><u>(22) ゴム付着状況</u></p>	<p><u>(12) 標識の状況</u></p> <p><u>① マーキングに不鮮明な部分がある場合には全て、種別および位置を記録する。</u></p> <p><u>② 標識塗装が磨り減って薄くなっている部分や、剥離している部分の範囲（縦*横）を記録する。</u></p> <p><u>(13) ゴム付着状況</u></p>	<p>4-1-10</p> <p>4-1-10</p>	<p>字句の削除</p> <p>字句の修正</p>

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前（H 2 1. 4）	修正後	頁	備 考
<p>ゴム付着がある場合には範囲（縦*横）を記録する。</p> <p>(23) 舗装面油汚れの状況 油汚れがある場合には範囲（縦*横）を記録する。</p> <p>(24) 異物の存在 異物を回収した場合には異物とその位置を記録する。</p> <p>(25) 点検の記録 ① 発見した異状個所は、すべて撮影する。 ② 路面への書き込み記録は油性ペイントなどを使用して小さく筆書きする。 ③ 施工状況は随時写真撮影し、人員、装備、数量などが確認できるものとする。</p> <p>(26) 許可が必要な区域内からの退出時は管制塔と交信し退出許可を受ける。</p> <p>(27) 終了時には以下の点を確認する。 ① 使用機械の点検（部品の欠落） ② 使用した道具類の数量 ③ 人員</p> <p>〔4〕 法面の巡回点検</p>	<p>ゴム付着がある場合には範囲（縦×横）を記録する。</p> <p>(14) 舗装面油汚れの状況 油汚れがある場合には範囲（縦×横）を記録する。</p> <p>(15) 異物の存在 異物を回収した場合には異物とその位置を記録する。</p> <p>(16) 点検の記録 ① 発見した異状個所は、すべて撮影する。 ② 路面への書き込み記録は油性ペイントなどを使用して小さく筆書きする。 ③ 施工状況は随時写真撮影し、人員、装備、数量などが確認できるものとする。</p> <p>(17) 許可が必要な区域内からの退出時は管制塔と交信し退出許可を受ける。</p> <p>(18) 終了時には以下の点を確認する。 ① 使用機械の点検（部品の欠落） ② 使用した道具類の数量 ③ 人員</p>	<p>4-1-10</p> <p>4-1-11</p>	<p>字句の修正</p> <p>字句の修正</p>
<p>〔解説〕</p> <p><u>(4) 自然法面は、下記項目の有無を確認し、異常がある場合にはその程度および範囲を調査する。</u></p> <p>① <u>地表水、地下水の流出</u></p> <p>② <u>侵食</u></p> <p>③ <u>排水施設の機能不善</u></p> <p>④ <u>亀裂、はらみ出し</u></p> <p>⑤ <u>塵埃、土砂の堆積</u></p> <p>⑥ <u>浮石、転石</u></p>	<p>表-1.2.4 維持管理点検事項¹⁾</p> <p>表省略</p>	<p>4-1-18</p>	<p>字句の削除</p>
<p>表-1.2.4 維持管理点検事項¹⁾</p> <p>表省略</p>	<p>表-1.2.4 維持管理点検事項¹⁾</p> <p>表省略</p> <p><u>(4) 自然法面は、下記項目の有無を確認し、異常がある場合にはその程度および範囲を調査する。</u></p> <p>① <u>地表水、地下水の流出</u></p> <p>② <u>侵食</u></p> <p>③ <u>排水施設の機能不善</u></p> <p>④ <u>亀裂、はらみ出し</u></p> <p>⑤ <u>塵埃、土砂の堆積</u></p> <p>⑥ <u>浮石、転石</u></p>	<p>4-1-19</p>	<p>字句の挿入</p>

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備 考
<p>1. 5 標識維持工 1. 5. 5 飛行場標識維持工 〔2〕 飛行場標識維持工 [解説] (1) 飛行場標識の形状、設置位置、色彩などの詳細については、「空港土木施設設計基準」を参照する。</p>	<p>1. 5 標識維持工 1. 5. 5 飛行場標識維持工 〔2〕 飛行場標識維持工 [解説] (1) 飛行場標識の形状、設置位置、色彩などの詳細については、「空港土木施設設置基準解説」を参照する。</p>	<p>4-1-44</p>	<p>字句の修正</p>

空港土木施設施工要領（平成 21 年 4 月） 修正表

修正前 (H21. 4)	修正後	頁	備考
<p>2. 3. 11 半たわみ性舗装修繕工</p> <p><u>〔2〕 使用材料</u></p> <p><u>本工事は、基本施設および道路駐車場舗装などの半たわみ性舗装に対し、ひび割れ注入などの修繕を行うものである。</u></p> <p><u>【解説】</u></p> <p><u>(1) 本節は、基本施設などの半たわみ性舗装に対し、ひび割れ注入などの修繕工事について定めるものとする。</u></p> <p><u>(2) 基本施設などの半たわみ性舗装に対し、ひび割れ注入などの修繕工事の手順を図-2.3.15 に示す</u></p> <div data-bbox="418 730 1154 1482" data-label="Diagram"> <pre> graph TD Start([半たわみ性舗装修繕工]) --> A[使用材料の選定] A --> B{作業区域の確認} B --- C[制限区域内] C --> D[制限区域内立入許可] D --> E[打ち替え舗装] D --> F[舗装面修繕] E --> G[試料採取] E --> H[養生] F --> H G --> I[材料試験] H --> J[廃材処分] I --> K[確認] J --> K </pre> </div> <p>図-4.3.15 半たわみ性舗装修繕工の手順</p> <p><u>(3) 作業計画書および日々の作業予定表に基づき、NOTAM 内容、作業区域、作業車両、作業人員などを把握しておくこと。</u></p> <p><u>(4) 作業に支障となる強雨、または強風時などは作業を中止しなければならない。</u></p> <p><u>(5) 凍結のおそれがある場合は散水を伴う作業を中止しなければならない。</u></p> <p><u>(6) 作業実施時の出来高確認は、適宜目視で確認を行うとともに清掃車のタコメータなどによる確認を行なわなければならない。</u></p>	<p>2. 3. 11 半たわみ性舗装修繕工</p>	<p>4-2-88</p> <p>4-2-89</p>	<p>字句及び図の削除</p> <p>字句の削除</p>